

平成 21 年度

**奄美群島における近隣地域等からの観光・交流推進方策
に関する調査報告書**

概要版

平成 22 年3月

国土交通省 都市・地域整備局

目次

1. 事業概要	1
1-1 本調査の背景と目的.....	1
1-2 本調査の進め方と各島・奄美群島全体・都市部ワーキンググループの実施体制.....	1
2. 各島および奄美群島全体の観光・交流の現状	3
2-1 昨年度の社会実験概要および結果と課題.....	3
2-2 各島別の地域資源の魅力と観光の特性.....	4
2-3 あまみ観光ごよみ(イベントカレンダー)による各島の地域資源の分類.....	6
2-4 各島および奄美群島全体の観光・交流の現状.....	13
2-5 各島および奄美群島全体の観光・交流受け入れ態勢.....	13
3. 奄美群島および都市部側から見た観光・交流推進への展望	15
3-1 各島ワーキンググループ会議からの意見.....	16
3-2 奄美群島全体ワーキンググループ会議からの意見.....	18
3-3 都市部側ワーキンググループ会議からの意見.....	20
4. 各島・奄美群島全体の観光・交流推進方策の方向性	22
4-1 奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島の観光・交流推進方策の検討結果.....	22
4-2 喜界島の観光・交流推進方策の検討結果.....	22
4-3 徳之島の観光・交流推進方策の検討結果.....	23
4-4 沖永良部島の観光・交流推進方策の検討結果.....	23
4-5 与論島の観光・交流推進方策の検討結果.....	24
4-6 奄美群島全体の観光・交流推進方策の検討結果.....	25
5. 奄美群島における東アジアからの外国人観光客の受入れ	28
5-1 各島および群島全体の外国人観光客来島の現状.....	28
5-2 外国人観光客受け入れに対する各島・奄美群島全体ワーキンググループ会議の結果.....	29
5-3 奄美群島における東アジアからの外国人観光客の受け入れについて.....	30
6. 各島・奄美群島全体での観光・交流推進の今後の進め方	33
6-1 各島の今後の観光・交流推進方策と受入れ態勢整備について.....	33
6-2 奄美群島全体の今後の観光・交流推進方策と受入れ態勢整備について.....	34

1. 事業概要

1-1 本調査の背景と目的

近年、奄美群島全域における観光産業は年間入込客数で見ると、約 74 万人前後でほぼ横ばいの状況にある。その一方、群島の振興開発において、観光産業は奄美群島全域の地理的・自然的特性や魅力、固有の地域資源を活かすことが可能な産業の 1 つといえる。

今後の奄美群島の振興開発を考えるうえでは、観光・交流人口の増加のみを目的とするのではなく、奄美群島全域の来訪者に対し、以下の視点が不可欠になっている。

- **いかに長期間滞在してもらうか？**
- **再度来訪してもらうためには何が必要であるのか？**

さらに、奄美群島の地理的な不利性を優位性に転換する視点の 1 つとして、東アジアに向けて開かれた位置にあるという立地条件が挙げられるため、経済成長を遂げる東アジアなどの近隣地域をターゲットに、観光・交流推進を図ることによる効果が考えられる。

本調査は、平成 20 年度に実施した「奄美群島における長期滞在型観光に関する社会実験等」のなかで取組んだ、群島内における長期滞在型の観光客受け入れ態勢づくりや島巡り周遊観光に対する社会実験結果を踏まえた利用促進策の検討を目的として実施するものである。

また、東アジアなど近隣地域を対象とした受け入れ態勢づくりとニーズの調査分析、新たな受け入れプラン等の検討を実施し、その効果や課題の分析を行い、奄美群島における東アジアなどの近隣地域からの観光・交流推進を考えるうえでの課題の整理をあわせて行うものとする。

1-2 本調査の進め方と各島・奄美群島全体・都市部ワーキンググループの実施体制

本調査は、奄美群島全体の観光・交流推進の現状を踏まえ、推進方策を検討し、地域が主体となる観光客受け入れ体制の整備を念頭に実施するものである。

目的を達成するために、本調査の中で求められているテーマに即しながら以下の 3 点の方針のもと、調査を進めるものとする。

1. 奄美群島における効果的な観光・交流推進方策の検討

「奄美群島における長期滞在型観光に関する社会実験等(平成 20 年度/国土交通省)」の調査結果とあわせて、「奄美ミュージアム構想(平成 16～25 年度/奄美群島広域事務組合)」、「奄美ミュージアム交流ネットワーク形成推進事業(平成 20 年度/奄美群島広域事務組合)」等の成果を活用し、奄美群島における具体的かつ効果的な長期滞在型観光の方策と東アジア等近隣地域の外国人観光客受け入れに向けた態勢づくりを検討する。

また、奄美群島内の有人 5 島（奄美大島（加計呂麻島、与路島、請島を含む）、徳之島、喜界島、沖永良部島、与論島をいう。以下、「各島」）と奄美群島全体の観光情報の一元化を図り、それぞれの島の魅力や特徴を伝えることで、国内・国外の観光・交流のターゲット別誘客方策を整理・検討する。

2. 地域が主体となって観光・交流の推進を行う組織体制の整備

奄美群島全体の観光事業者だけでなく地元のメディア関係者や群島内外の特産品販売事業者など、地域に関わる多様な人材が主体的に関わる組織・体制の構築により、観光交流と一体となった産業振興を目指すものとする。

加えて、集客圏である都市部において、奄美群島の情報発信を効果的に行うための方策を検討し、有人5島と奄美群島全体の観光・交流推進を目的とする包括的かつ継続性のある組織の在り方を検討する。

3. 奄美群島全体の観光・交流推進関係者の役割分担の具体化・明確化

奄美群島全体を俯瞰すると、観光・交流推進を目的とした多様な既存組織がみられるが、その具体的な役割や業務内容は、各島の状況や組織の設置目的によって様々である。このため、群島全体を包括する観光・交流推進組織整備の検討とあわせて、関係団体や関係者の役割分担の具体化および明確化を行い、観光・交流推進のための望ましい受け入れ窓口機能、都市部へ向けた観光・交流情報の発信方策等を検討する。

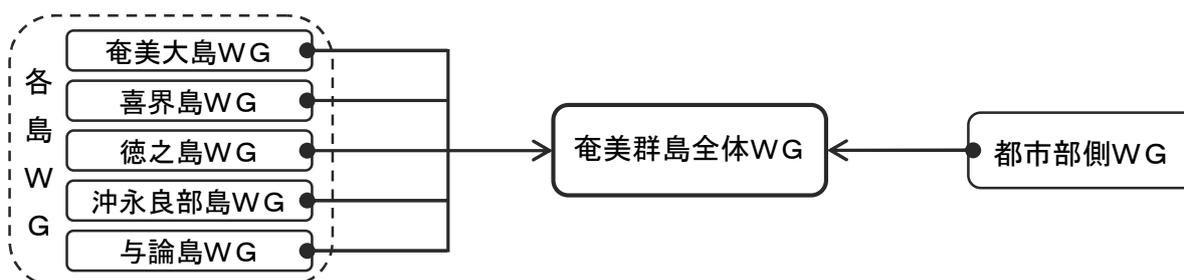
特に、関係団体や関係者の役割分担を具体的かつ明確にすることで、組織機能の向上と充実に資することを旨とする。

なお、本調査を実施するにあたり、各島および奄美群島全体にワーキンググループ（以下、WG）を設置し、地域ごとの観光・交流推進関係者による意見交換を行い、地域の実情に沿った検討の実施、および課題の抽出と観光・交流推進方策の提案を行うものとする。

あわせて、奄美群島の観光・交流における主要なマーケットと考えられる首都圏において、都市部WGを設置し、奄美群島各島と首都圏側との意識の違いや情報伝達における課題の抽出を行う。

各島WG、奄美群島全体WG、都市部WGによる調査の実施体制を以下に示す。

各島WGと奄美群島全体WGおよび、都市部WGの概念図



2. 各島および奄美群島全体の観光・交流の現状

2-1 昨年度の社会実験概要および結果と課題

(1) 社会実験の概要

「平成 20 年度 奄美群島における長期滞在型観光に関する社会実験等」では、「奄美群島における長期滞在型観光に関する実態の把握」と「島巡り周遊観光等に関する社会実験等」の 2 つの実施内容から得られた結果より、「奄美群島の長期滞在型観光に関する促進策についての検討」が行われた。

上記の調査および検討結果を踏まえ、奄美群島の長期滞在型観光に関する促進策の検討を行った。

(2) 社会実験の結果と課題

「奄美群島における長期滞在型観光に関する実態の把握」において、観光利用者と宿泊施設に対して実施したアンケート調査の結果から長期滞在型観光における現状と課題について以下に示す。

《平成 20 年度 奄美群島における長期滞在型観光に関する社会実験等 報告書より抜粋》

現状と課題 ～アンケート調査結果より～

- 現状では短期間の滞在中、有名観光地や海岸等での風景探勝といった行動が大部分であり、奄美地域の魅力が十分に認識・活用されていない。
- 「島のひととの交流」へのニーズは高い。再訪時の行動は多様化する傾向が伺え、体験型観光が増加する可能性がある。
- 滞在型観光を受け入れるための地域連携の取組や情報発信が充分ではない。

「島巡り周遊観光等に関する社会実験等」として実施した「沖永良部島・与論島コース」と「奄美大島・加計呂麻島・与路島コース」の 2 つのモニターツアーの結果より得られた現状と課題について以下に示す。

《平成 20 年度 奄美群島における長期滞在型観光に関する社会実験等 報告書より抜粋》

現状と課題 ～社会実験より～

- 来訪者から評価が特に高かったのは地域の人材による案内、地域の人々との交流、地域ならではの体験。
- 奄美にしかない自然・文化・暮らしを活かしたプログラムが商品化されていない。
- 個々のプログラムについて、より、「じっくりと体験」することを志向する傾向がある。また、プログラムの質的向上やより深い体験活動の提供が求められている。
- 単一の集落や自治体での受け入れには限界があることから、地域が一体となって受け入れを調整する仕組みが必要。
- 滞在型観光に関するプログラム等の情報整備や関係者間での情報共有が不足。
- 試行的観光メニューの持続的展開に向けた条件整備が必要。
- 奄美の魅力に関する情報提供が不足。

昨年度の社会実験等の結果から、奄美群島における観光・交流推進では、以下の 4 点について今後具体的な方策の検討とあわせた取り組みが必要であることが分かった。

- 案内や体験などを通じての島のひととの交流の機会創出
- 奄美群島固有の自然・文化・暮らしを活かした体験プログラムづくり
- 地域の関係者と行政などによる受け入れ態勢整備
- 各島および奄美群島全体の観光・交流に関する情報発信

2-2 各島別の地域資源の魅力と観光の特性

平成 20 年度の社会実験等では、奄美群島内の複数の島でモニターツアーが催行されたが、中でも各島固有の地域資源を活用した体験プログラムが多数実施されている。

今後、奄美群島の各島において観光・交流推進を進めるに当たり、観光・交流の受け入れ側関係者が各島の地域資源の特性と魅力を把握し、来訪者に対してそれらをより効果的に発信し、体験してもらう方策が必要となる。そのためには、島別の地域資源のリスト化と分類を行い、それをもとに資源別にどのようなものがいつ楽しめるのかを明確にする必要がある。

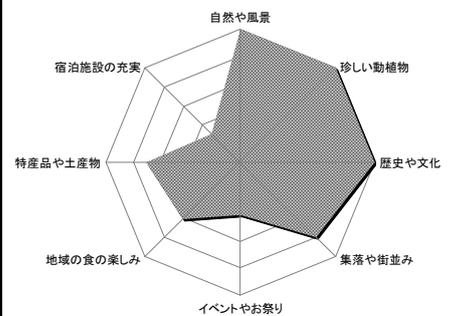
本調査では、各島の食文化、特産品（加工品、農水産品、工芸品）、名所、平成 21 年 2 月時点で国および県の指定、登録を受けた文化財などの地域資源について、既存の観光パンフレット、ホームページなどに記載されている観光情報をもとに大まかなリスト化を行い、各島にある地域資源の魅力と観光の特性を分析した。さらに、その結果を各島で 3 回ずつ開催したワーキンググループにおいて、各委員および関係者に提示し、意見を求めながら地域資源の魅力を示す表としてまとめた。

各島の地域資源は、日常生活の空間から離れた場所を訪れ、名所旧跡や飲食を楽しみ、休養を得るなど一般的な観光を楽しむ旅行者が魅力とする、「自然や風景」、「珍しい動植物」、「歴史や文化」、「集落や街並み」、「イベントやお祭り」、「地域の食の楽しみ」、「特産品や土産物」、「宿泊施設の充実」の 8 項目から、代表的なものを分類し表とレーダーチャート（文化財指定などのあるものを最上位としその他の分野についてはWG会議の議論において位置づけを設定）で示した。以下に、各島の地域資源リスト、観光の魅力およびレーダーチャートとあわせて分析結果を示す。

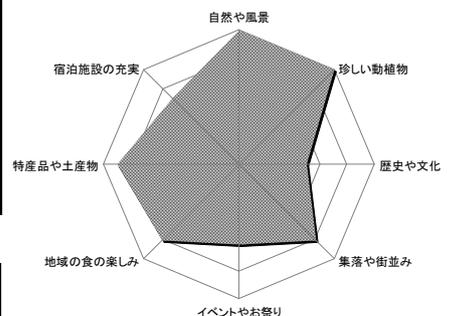
(1) 奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島

地域資源の種類	地域資源の名称	地域資源の種類	地域資源の名称	
食文化	郷土料理	鶏飯	重要無形民俗文化財・国指定 諸純シバヤ(諸純芝居)	
		油ぞうめん	秋名アラセツ行事	
		山芋料理	無形民俗文化財・国指定 -	
		イノシシ料理	有形文化財(建造物)・国指定 泉家住宅	
		豚味噌	有形文化財・国登録 瀬戸内町内6箇所の旧奉安殿	
		豚骨料理	瀨留カトリック教会聖堂	
		野菜料理	奄美ばしや山民俗村旧安田家住宅主屋	
		魚貝その他料理	園家住宅主屋	
			旧大司家住宅高倉	
			旧有村商事高倉	
加工品	たんかんマーマレード&ジュース		旧岩切家住宅高倉	
	ずももジャム&ジュース	記念物(史跡)・国指定 宇宿貝塚		
	かけろまきび酢・きび酢		赤木名城跡	
	黒糖焼酎	特別天然記念物・国指定 アマミノクロウサギ		
	黒砂糖	天然記念物・国指定 ルリカケス		
	はちみつ		アカヒゲ	
特産品	農水産品	タンカン	オカヤドカリ	
		パッションフルーツ	カラスバト	
		スモモ	オオトラツグミ	
		さとうきび	オーストンオオアカゲラ	
		ハンダマ(金時草)	トゲネズミ(アマミトゲネズミ)	
		青ハバパイヤ	ケナガネズミ	
		クロマクロ	神屋・湯湾岳	
		イセエビ	大和浜のオキナワウラジロガシ林	
工芸品	大島紬			
名所	太字は奄美十景	大浜海浜公園	無形民俗文化財・県指定 油井豊年踊り	
		あやまる岬	有形民俗文化財・県指定 節田マンカイ	
		長瀬岬から見た龍郷湾	有形文化財(建造物)・県指定 奄美大島のノロ関係資料	
		湯湾岳から見た焼内湾	有形文化財(建造物)・県指定 大和浜の郡倉	
		油井岳から見た大島海峡	記念物(史跡)・県指定 南洲流説跡	
		金作原原生林	天然記念物・県指定 城間トフル墓群	
		マングロープ原生林		イボイモリ
		マテリヤの滝		インカワガエル
		土盛海岸		オットンガエル
		島尾敏夫文学碑		請島のウケユリ自生地

奄美大島(西部)の観光の魅力



奄美大島(北部)の観光の魅力



奄美大島(北部)の観光の魅力

項目	備考
自然や風景	金作原など原生林、あやまる岬、サンゴの砂浜
珍しい動植物	アマミノクロウサギ、ハブ
歴史や文化	島唄、サンジンの演奏
集落や街並み	赤木名や龍郷の集落
イベントやお祭り	八月踊り、奄美祭り、かんもーれ市場
地域の食の楽しみ	名瀬周辺の郷土料理店、三献料理、島野菜
特産品や土産物	黒糖焼酎、大島紬、ハブ皮細工
宿泊施設の充実	空港周辺のリゾートホテル、名瀬のホテル

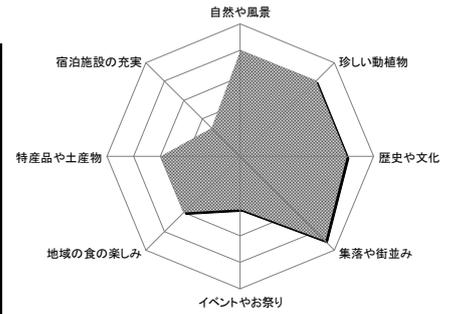
奄美大島(南部)の観光の魅力

項目	備考
自然や風景	湯湾岳、加計呂麻島、大島海峡、滝や川
珍しい動植物	アマミノクロウサギ、ハブ
歴史や文化	島唄、諸純シバヤ、油井豊年踊り、平瀬マンカイ
集落や街並み	古い集落景観、与路島の集落
イベントやお祭り	八月踊り
地域の食の楽しみ	三献料理、島野菜
特産品や土産物	黒糖焼酎、大島紬
宿泊施設の充実	

(2) 喜界島

地域資源の種類	地域資源の名称	地域資源の種類	地域資源の名称			
食文化	郷土料理	山羊料理(さしみ、スープ、焼肉)	名所	太字は奄美十景	百之台(国定公園)	
		豚骨料理		ムチャ加那公園		
		豚味噌			ポイント211(七島鼻)	
		地魚の料理			雁股の泉	
		夜光貝等の料理(さしみ、酢の物)			城久遺跡群	
特産品	加工品	油うどん				
		ヤキムッチー				
		ムチグミテンブラ				
		黒糖酒				
		黒糖焼酎				
	黒砂糖					
	きび酢					
	ゴマドレッシング					
	農水産品	白ごま	記念物・文化財	天然記念物・国指定	オカヤドカリ	
		花良治ミカン				カラスバト
		タンカン				
		メロン				
		マンゴー				
		トマト				
		海ぶどう				
		くるまえば				
	工芸品	-				

喜界島の観光の魅力



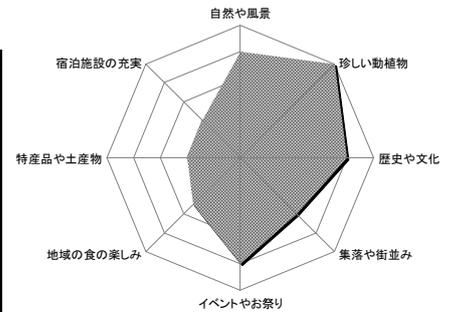
喜界島の観光の魅力

項目	備考
自然や風景	隆起サンゴの地形、百之台、農業の景観
珍しい動植物	オオゴマダラなどの蝶、ハマサンゴ、巨木
歴史や文化	グスク遺跡群、ポイント211(第二次大戦戦跡)
集落や街並み	阿伝集落など昔の集落景観、珊瑚の石垣
イベントやお祭り	各集落のお祭り
地域の食の楽しみ	地元食材を使っている料理店、飲食店
特産品や土産物	黒糖焼酎、多種類の柑橘類、農作物
宿泊施設の充実	

(3) 徳之島

地域資源の種類	地域資源の名称	地域資源の種類	地域資源の名称			
食文化	郷土料理	魚(ぎょう)なぐさみ	名所	太字は奄美十景	犬布岬	
		地豆腐(落花生で作る)				むしろ瀬
		山羊料理				犬の門蓋
		イセエビ料理				鐘乳洞
		魚介類料理				畑の中の海
特産品	加工品	鶏飯			金見崎ソテツトンネル	
		さとうきび酢			睦プリンスビーチ	
	農水産品	さとうきび			喜念浜海岸	
		落花生			戦艦大和の慰霊塔	
		自然海塩			富山丸慰霊塔	
	工芸品	夜光貝細工				
	名所	犬布岬				

徳之島の観光の魅力



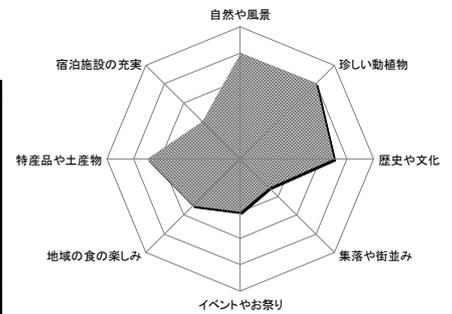
徳之島の観光の魅力

項目	備考
自然や風景	犬布岬、むしろ瀬、犬の門蓋
珍しい動植物	アマミクロウサギ、ハブ
歴史や文化	カムイヤキ窯跡、戦艦大和の慰霊塔
集落や街並み	阿権集落と平(たいら)家
イベントやお祭り	トライアスロン、闘牛、スポーツイベント
地域の食の楽しみ	百菜(農産物直売所)、長寿の食材
特産品や土産物	百菜など農産物直売所の商品
宿泊施設の充実	

(4) 沖永良部島

地域資源の種類	地域資源の名称	地域資源の種類	地域資源の名称			
食文化	郷土料理	味噌漬	名所	太字は奄美十景	田皆岬	
		ミカンの一種のブッシュカン漬				昇竜洞
		ハバイヤ漬				フーチヤ
		特産の田芋のお餅や味噌あえ				ウジジ海岸
		ピーナッツ(落花生)の塩ゆで				屋子母海岸
特産品	加工品	イセエビ料理			ワンジョビーチ	
		魚貝類料理			大山植物公園	
		豚骨料理			城山公園	
		黒糖焼酎			日本一のガジュマル大木	
		ゆきみし			西郷上陸の地・南洲神社	
	農水産品	びわ茶葉	記念物・文化財	記念物(史跡)・国指定	住吉貝塚	
		グアハ葉茶				
		ハバイヤ				
		キラゲ				
		ジャガイモ				
		サトイモ				
		エラブユリ				
		ハイビスカス				
	工芸品	芭蕉布				
		大島紬				

沖永良部島の観光の魅力

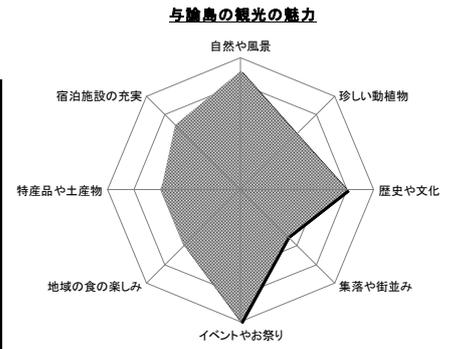


沖永良部島の観光の魅力

項目	備考
自然や風景	フーチヤ、鐘乳洞と湧水、田皆岬
珍しい動植物	エラブユリ、ウミカメ、クジラ、ガジュマル
歴史や文化	琉球文化の遺跡、世之主の墓
集落や街並み	湧水の水場と集落景観
イベントやお祭り	ゆうゆう市、みへでいる市
地域の食の楽しみ	地場産野菜などを出す飲食店
特産品や土産物	黒糖焼酎、農作物や加工品、菓子類
宿泊施設の充実	

(5) 与論島

地域資源の種類	地域資源の名称	地域資源の種類	地域資源の名称		
食文化	郷土料理	名所	太字は奄美十景		
	もずく料理		百合ヶ浜		
	イューガマ(アイゴの稚魚)の酢の物		与論城跡		
	イセエビ料理やウニ		与論城跡公園		
加工品	とび魚料理	名所	按司根津栄(アジニツエ)神社		
	豚骨料理		屋川(ヤゴ)		
	特産のカボチャ料理		奄水(アマンジョウ)		
	黒糖焼酎		大金久(オオガネク)海岸		
	ムッチャー(餅菓子)		寺崎海岸		
	葉草茶		兼母海岸		
	きび酢		60以上の名前のついた砂浜		
	もずくそば		季節によって見える南十字星		
	農水産品		パパイヤ	名所	故・森瑤子の墓
			マンゴー		
ドラゴンフルーツ					
パッションフルーツ					
島バナナ					
アテモヤ					
特産品	ゴーヤ	記念物・文化財	重要無形民俗文化財・国指定 与論十五夜踊り		
	モズク		天然記念物・国指定 オカヤドリ		
	自然海塩		カラスバト		
工芸品	ゆんぬ・あーどうる焼				
	貝細工				



与論島の観光の魅力

項目	備考
自然や風景	百合が浜、珊瑚礁、60以上ある砂浜、南十字星
珍しい動植物	ウミガメ、オオゴマダラ、アサギマダラ
歴史や文化	琉球文化の遺跡、与論城跡、
集落や街並み	屋川、奄水など昔の生活用水
イベントやお祭り	十五夜踊り、ヨロンマラソン、パナウルウォーク
地域の食の楽しみ	地元食材を使う料理店、居酒屋、与論献奉
特産品や土産物	黒糖焼酎、菓子類
宿泊施設の充実	複数のリゾートホテル

2-3 あまみ観光ごよみ(イベントカレンダー)による各島の地域資源の分類

奄美群島の各島は、沖永良部島と与論島が琉球文化の影響を色濃く受けているのに対し、奄美大島や喜界島など群島の北部に位置する島では、大和文化や薩摩支配の時代の影響が見られる。このような島ごとの歴史的、文化的背景の違いは、現在でも各島、各地域で開催されているイベントや祭礼、年中行事に反映されている。

また、地学的に見た各島の特徴では、喜界島、沖永良部島、与論島が隆起珊瑚礁からなる石灰岩の地質であるのに対し、徳之島では古生層と石灰岩による地質、奄美大島は古生層が大部分を占めているといった違いが見られる。これらの地学的な特徴は、各島に生息する動植物や植生の違い、栽培されている農作物の種類にも影響を与えており、それらが島の景観に反映されることで、観光・交流における目に見える特徴として認知されるに至っている。

本調査では、奄美群島の各島について、イベントや年中行事、動植物や農作物を地域資源としてとらえ、奄美群島の各島について、年間を通したイベントや年中行事、農作物や動植物の状況など地域資源を一覧できる「あまみ観光ごよみ(イベントカレンダー)」としてまとめるとともに、島によっては、観光・交流の中核を成す体験プログラムについても、あわせて、年間を通し楽しめる時期をあまみ観光ごよみの中に記載した。

なお、あまみ観光ごよみに取り上げた地域資源については、観光・交流推進という観点から、既存の観光パンフレットやマップ、施設で配布されているリーフレット、「奄美手帳 2010(企画・編集:山中順子、発行:(有)サワンルーク、平成21年12月)」などに記載されているものを中心に集約しており、今後、各島において地域の関係者および学識者などを中心に、さらなる地域資源の掘り起こしを行い、充実化を図ることが求められる。

次頁より、奄美群島の各島の地域資源について集約した「あまみ観光ごよみ(イベントカレンダー)」を示す。

なお、奄美群島では、今日においても旧暦による年中行事や生活文化が重視されているため、今回作成した「あまみ観光ごよみ」では、西洋暦と一般的に区分されている四季とともに、奄美に古くから伝わる季節区分である「奄美の十二季」を併記し、温帯の本土と亜熱帯の奄美の季節の移り変わりを比較することを試みた。

あわせて、季節の変化や特徴を把握するための目安として、「奄美の雑節」も併記した。

あまみ観光ごよみ/奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島 その1

奄美の季節	冬	早春	陽春	初夏	梅雨	夏	晩夏	初秋	霖雨	秋	晩秋	初冬															
奄美の十二季	師走南(シワスパイ)	木崩雨(キブツメ)	桜流し(サクラナガシ)	大流(オオナガシ)	本流(ホンナガシ)	6月日照(ロクガツヒデリ)	盆東風(ボンゴチ)	驟雨(ノシキアメ)	鷹糞雨(タカクスアメ)	糸朽(ノークタ)	寒波(カンバ)	湿润(シツタリ)															
奄美の雑節	一月木崩雨(イチガツキブツメ)	鳥南(トリバイ)	三月赤山(サンガチハーヤマ)	ハシリ、八十八夜	入梅	新南風(アラバイ)	台風襲来、盆アレ	にわか雨(ノークアメ)	新北風(ミーニシ)	牝風(ウナンドレ)	雲多(ウンタ)	冬至(トウジ)															
本土の四季	冬			春			夏			秋			冬														
月別	1月【睦月】		2月【如月】		3月【弥生】		4月【卯月】		5月【皐月】		6月【水無月】		7月【文月】		8月【葉月】		9月【長月】		10月【神無月】		11月【霜月】		12月【師走】		備考		
上旬・中旬・下旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
◆奄美大島のイベント	●マングローブジョギング大会 ●紬のつどい ●まほろば大和 グランドゴルフ大会 ●瀬戸内町駅伝競走大会 ●三太郎峠歩こう会 ●奄美桜マラソン、まほろば大和ウォーキング大会 ●村民レクリエーション祭り ●奄美ジャングルトレイル ●奄美市美術展覧会						●浜下れ ●加計呂麻・請・与路島三島民バレー ●与路島舟こぎ大会 ●請阿室ウォークラリー				●奄美シーカヤックマラソンin加計呂麻大会 ●六月灯(高千穂神社の祭礼、縁日) ●タエン浜海開き、マリンフェスタin加計呂麻 ●奄美まつり(舟こぎ競争、島唄大会、パレード、花火) ●やけうちどんと祭り ●瀬戸内町みなと祭り(八月祭り) ●あやまる祭り ●三太郎祭り				●キトバレ祭り ●いそ加那節・俊良主節でゆらおう～島唄のタベ～ ●大和村豊年祭 ●シヨチョゴマ・平瀬マンカイ(秋名アラセツ行事) ●油井豊年踊り(クガツクンチ) ●勝能の虎踊り ●大和村豊年祭 ●諸鈍シバヤ、実久三次郎祭り ●ラフウォータースィムin奄美大島 ●子ども島口・伝統芸能大会 ●加計呂麻島ハーフマラソン				●奄美市民文化祭関連クラシックまつり ●島口島唄のタベ ●オリオンスーパーベースボール ●奄美大島チャレンジサイクリング ●ひらとみ朝市								
◆奄美大島の地域資源	気象		◎かがんばなトンネルの夕陽								◎かがんばなトンネルの夕陽												春と秋に見られる				
農作物を味わう	●タンカン						●スモモ		●パッションフルーツ		●島バナナ ●マンゴー						●サトウキビ						2月～3月下旬 5月中旬～6月中旬 6月～9月中旬 8月～9月 8月 12月上旬～4月上旬 6月上旬～12月 6月中旬～9月下旬 8月～9月 9月上旬～11月				
海産物を味わう	●カツオ ●クロマグロ						●イラブチ		●イセエビ		●青パパイヤ												6月～8月上旬 8月上旬 通年 通年				
楽しむ植物	●ヒカンザクラ		●シャリンバイ		●デイゴ		●ソテツ雄花 ●ウケユリ開花				●ソテツの実												1月中旬～2月上旬 3月～4月 5月～6月 6月				
生物を観察する	●リュウキュウアサギマダラ越冬		●アカヒゲ・オーストンオオアカゲラのさえずり、繁殖期		●リュウキュウアカショウビン渡来						●アサギマダラ渡来						●コブシメ、アオイカ、アマミスズメダイ						11月渡来、2月上旬まで越冬 2月下旬～5月上旬 4月下旬～9月上旬 12～2月 3～4月 5～6月 7～9月 10～11月				
			●キホシスズメダイ、ソコイトヨリ		●スマガツオ、サワラ、キツネウオ、タカサゴ、キビナゴ		●オヤビッチャ、スジアラ				●ホウセキキントキ、ウメイロ																

あまみ観光ごよみ / 奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島 その2

奄美の季節		冬			早春			陽春			初夏			梅雨			夏			晩夏			初秋			霖雨			秋			晩秋			初冬			
奄美の十二季		師走南(シワスバイ)			木崩雨(キブツメ)			桜流し(サクラナガシ)			大流(オオナガシ)			本流(ホンナガシ)			6月日照(ロクガツヒデリ)			盆東風(ボンゴチ)			驟雨(ノシキアメ)			鷹糞雨(タカクスアメ)			糸朽(ノークタ)			寒波(カンバ)			湿潤(シツタリ)			
奄美の雑節		一月木崩雨(イチガツキブツメ)			島南(トリバイ)			三月赤山(サンガチハーヤマ)			ハシリ、八十八夜			入梅			新南風(アラバイ)			台風襲来、盆アレ			にわか雨(ノークアメ)			新北風(ミーニシ)			牝風(ウナンドレ)			雲多(ウンタ)			冬至(トウジ)			
本土の四季		冬						春						夏						秋						冬												
月別		1月【睦月】			2月【如月】			3月【弥生】			4月【卯月】			5月【皐月】			6月【水無月】			7月【文月】			8月【葉月】			9月【長月】			10月【神無月】			11月【霜月】			12月【師走】			備考
上旬・中旬・下旬		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
◆奄美大島の地域資源	楽体し験むを																												12月~4月									
		2月~3月																																				
◆奄美大島の年中行事、祭礼(旧暦)		<p>正月祝、若水、サンゴヤドリ節句(各島々)、正月の床飾り(瀬戸内)、節田マンカイ(笠利)、大工神様の祝(大和)、インバンの祝(名瀬大熊)、太陽神・水上様参拝(島内各家)、七草(群島各集落)、トクザラエ(龍郷)、成り餅(島内各家)、ヒチャゲ(笠利、龍郷)、月待ち(各集落)</p> <p>海開き(大浜海岸公園、用安ばしゃ山村)、サングウチサンチ(女の子の節句・島内各集落)</p> <p>太陽神・水上様参拝(島内各家)、浜下れ(笠利、宇検)、ハネマツ(名瀬有良)、ゴガツゴンチ(5月の節句・奄美市他)、ガヤマキ(瀬戸内)</p> <p>ロウガツトウ(龍郷、名瀬)、アラホバナ(名瀬仲勝、大和)</p> <p>旧暦七夕(奄美市他)</p> <p>お盆(群島各家)、ひらとみ祭り(大和)、スカリ・ツカリ(龍郷秋名、笠利)、太陽神・水上様参拝(島内各家)、秋名アラセツ行事(シヨチヨガマ、平瀬マンカイ・龍郷秋名)、八月踊り(奄美渡島各集落)、シバサシ(奄美大島各集落)、油井豊年踊り(瀬戸内油井)、竿踊り(西仲間)、十五夜・豊年祭(瀬戸内・加計呂麻他)、棒踊り(瀬戸内)</p> <p>キトバレ踊り(大和)、ムチムレ踊り(大和・カネサル(瀬戸内・各集落)、フルメ(冬折り目・大和・大金久・今里・大棚)、秋葉神社大災祈願(宇検)、キトウアシビ(宇検)、年の暮れの正月豚(奄美大島各家)</p>																																				

(2) 喜界島

あまみ観光ごよみ/喜界島

奄美の季節	冬	早春	陽春	初夏	梅雨	夏	晩夏	初秋	霖雨	秋	晩秋	初冬																																										
奄美の十二季	師走南(シワスパイ)	木崩雨(キブツメ)	桜流し(サクラナガシ)	大流(オオナガシ)	本流(ホンナガシ)	6月日照(ロクガツヒデリ)	盆東風(ボンゴチ)	驟雨(ノシキアメ)	鷹糞雨(タカクスアメ)	糸朽(ノークタ)	寒波(カンバ)	湿润(シツタリ)																																										
奄美の雑節	一月木崩雨(イチガツキブツメ)	鳥南(トリバイ)	三月赤山(サンガチハーヤマ)	ハシリ、八十八夜	入梅	新南風(アラバイ)	台風襲来、盆アレ	にわか雨(ノークアメ)	新北風(ミーニシ)	牝風(ウナンドレ)	雲多(ウンタ)	冬至(トウジ)																																										
本土の四季	冬			春			夏			秋			冬																																									
月別	1月【睦月】		2月【如月】		3月【弥生】		4月【卯月】		5月【皐月】		6月【水無月】		7月【文月】		8月【葉月】		9月【長月】		10月【神無月】		11月【霜月】		12月【師走】		備考																													
上旬・中旬・下旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																														
◆喜界島のイベント	●ナンカスック・七草		●俊寛ジョギング大会		●海開き		●喜界町しま興し祭り		●喜界町夏まつり		●サマーフェスタinスギラ		●ゲンギンミナト祭り		●招魂祭		●豊年祭り		●島内一週駅伝競走大会		●島遊び・ソウメンカブー																																	
◆喜界島の地域資源	●タンカン		●花良治ミカン(ケラジミカン)		●ロクガツミカン(フスー)		●トーカー(九年母)		●シークー・ムンニハー(島みかん)		●メロン		●クリハー(島ミカン)		●マンゴー、パッションフルーツ		●島バナナ		●サトウキビ		2月上旬~4月末		9月上旬~1月		1月~2月		1月~2月		1月~2月		12月中旬~4月下旬		8月上旬~11月		8月		8月~10月		12月上旬~4月上旬		1月~3月		1月上旬~5月		3月下旬~5月中旬		4月		6月~9月		8月上旬~10月		3月	
	●サトウキビ		●ウム(田イモ)		●桃太郎トマト		●ツワブキ		●トーマミー(そら豆)		●フワリ(田イモの茎)		●ゴマ		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●ヒカンザクラ		12月~2月		4月~5月上旬		6月~10月		4月北上、10月~12月南下		4月~9月		6月~7月		12月~4月		年間		年間		年間															
	●ヒカンザクラ		●ソテツ新緑		●島ユリ、グラジオラス		●テンニンギク(特攻花)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)													
	●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)															
◆喜界島の年中行事、祭礼(旧暦)	若水、吉書、サンゴン 祝、作初め、ナナカン		ゆりの節句(3月3日)		端午の節句(新暦5月5日)		ロクガツトウ、七夕、七夕おろし、盆迎え、盆の送り		シチャミ、シバサシ、トウンニヤー		ゲンギンミナト祭り、ハンカンメー、招魂祭、島遊び、ソウメンカブー、フンミームッチームライ		ウヤンコー、フンミー																																									
農作物を味わう	●サトウキビ		●ウム(田イモ)		●桃太郎トマト		●ツワブキ		●トーマミー(そら豆)		●フワリ(田イモの茎)		●ゴマ		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●ヒカンザクラ		12月~2月		4月~5月上旬		6月~10月		4月北上、10月~12月南下		4月~9月		6月~7月		12月~4月		年間		年間		年間															
楽しむ	●ヒカンザクラ		●ソテツ新緑		●島ユリ、グラジオラス		●テンニンギク(特攻花)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)															
生物を	●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)		●アサギマダラ(北上)		●アサギマダラ(南下)															
楽しむ	キビ刈り・黒糖作り体験(酒蔵で)						黒糖焼酎の酒蔵見学		島内の集落(湾、中里、荒木、阿伝、塩道・早町)めぐり		スキューバダイビング																																											

(3) 徳之島

あまみ観光ごよみ/徳之島

奄美の季節	冬	早春	陽春	初夏	梅雨	夏	晩夏	初秋	霖雨	秋	晩秋	初冬																									
奄美の十二季	師走南(シワスパイ)	木崩雨(キブツメ)	桜流し(サクラナガシ)	大流(オオナガシ)	本流(ホンナガシ)	6月日照(ロクガツヒデリ)	盆東風(ボンゴチ)	驟雨(ノシキアメ)	鷹糞雨(タカクスアメ)	糸朽(ノークタ)	寒波(カンバ)	湿润(シツタリ)																									
奄美の雑節	一月木崩雨(イチガツキブツメ)	鳥南(トリバイ)	三月赤山(サンガチハーヤマ)	ハシリ、八十八夜	入梅	新南風(アラバイ)	台風襲来、盆アレ	にわか雨(ノークアメ)	新北風(ミーニシ)	牝風(ウナンドレ)	雲多(ウンタ)	冬至(トウジ)																									
本土の四季	冬			春			夏			秋			冬																								
月別	1月【睦月】			2月【如月】			3月【弥生】			4月【卯月】			5月【皐月】			6月【水無月】			7月【文月】			8月【葉月】			9月【長月】			10月【神無月】			11月【霜月】			12月【師走】			備考
上旬・中旬・下旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
◆徳之島のイベント	●徳之島闘牛大会			●クロスカントリー大会 ●初原祝 ●青少年ふるさと大会			●戦艦大和慰霊祭 ●徳之島闘牛大会 ●徳之島ワイドマラソン			●富山丸慰霊祭 ●黒砂糖まつり ●秋徳湊の戦い400年祭			●海開き ●山ヘリコプター自衛隊慰霊祭			●トリアスロンin徳之島 ●徳之島どんどん祭り ●あまぎ祭り			●秋利神こどもの国フェスタ ●盆迎え・送り盆 ●井之川夏目踊り ●手タムチタボレ			●伊仙町夏祭り ●亀徳ネンケ			●米寿の祝 ●徳之島闘牛大会 ●徳之島ワイドマラソン			●徳之島長寿世界一ウォーキング大会									
◆徳之島の地域資源	●サトウキビ									●パッションフルーツ			●ドラゴンフルーツ ●グアバ									●サトウキビ			6月上旬～9月中旬 8月上旬～10月下旬 8月上旬～9月下旬 12月上旬～4月上旬												
	●ニガウリ			●ジャガイモ			●ニガウリ			●ラッカセイ ●ハンダマ			●トウガン			●青パパイヤ			●シークニン			●ニガウリ			6月中旬～8月下旬 6月上旬～12月 5月中旬～7月下旬 9月上旬～11月 11～1月、4月中旬～8月 2月中旬～6月												
	●ヒカンザクラ			●ソテツ新緑			●ソテツ雄花			●オオヤドカリの産卵			← 追い込み漁 →			●ソテツの実			●ヒカンザクラ			12月～2月															
	●観察施設で記録映像によるアマミノクロウサギ観察																								6月下旬～7月上旬 通年・12～3月に繁殖												
	●観察施設で記録映像によるアマミノクロウサギ観察																								7月～8月												
◆徳之島の年中行事、祭礼(旧暦)	若水汲み(島内各家)吉書書初め、せーく祝、船正月(徳之島)、16日節句、ウヤンコー、ウヤホ正月(天城)、初原祝、七草、鏡開き、年正月、柳餅、ナリ餅飾り、15日正月、月祭り、送り正月、二十日正月(徳之島)												女の節句(3月3日・徳之島)			ショウシガナシ、虫除き(徳之島)、海開き(天城)			月祭り、端午の節句(新暦5月5日)、畦畔祭(徳之島)、海開き(伊仙)			支給米(徳之島)			浜おり(天城、徳之島)、ヤドリ造り(徳之島・井川)			ネンケ(徳之島)、手タムチタボレ(徳之島・手々)、イッサンサン(伊仙・犬田布、木之香)、十五夜(徳之島)			月祭り(徳之島)、秋ムチ(伊仙)			先祖祭(徳之島・小島、白井、尾母、亀津)			

(4) 沖永良部島

あまみ観光ごよみ / 沖永良部島

奄美の季節	冬	早春	陽春	初夏	梅雨	夏	晩夏	初秋	霖雨	秋	晩秋	初冬																									
奄美の十二季	師走南(シワスパイ)	木崩雨(キブツメ)	桜流し(サクラナガシ)	大流(オオナガシ)	本流(ホンナガシ)	6月日照(ロクガツヒデリ)	盆東風(ボンゴチ)	驟雨(ノシキアメ)	鷹糞雨(タカクスアメ)	糸朽(ノークタ)	寒波(カンバ)	湿润(シツタリ)																									
奄美の雑節	一月木崩雨(イチガツキブツメ)	鳥南(トリバイ)	三月赤山(サンガチハーヤマ)	ハシリ、八十八夜	入梅	新南風(アラバイ)	台風襲来、盆アレ	にわか雨(ノーキアメ)	新北風(ミーニシ)	牝風(ウナンドレ)	雲多(ウンタ)	冬至(トウジ)																									
本土の四季	冬			春			夏			秋			冬																								
月別	1月【睦月】			2月【如月】			3月【弥生】			4月【卯月】			5月【皐月】			6月【水無月】			7月【文月】			8月【葉月】			9月【長月】			10月【神無月】			11月【霜月】			12月【師走】			備考
上旬・中旬・下旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
◆沖永良部島のイベント	●ニューイヤーコンサート ●世之主神社新年大祭 ●知名町一周駅伝大会 ●沖永良部・桜まつり			●フラワーフェスティバル ●花の島沖えらぶジョギング大会			●五月の祭典			●和泊町港祭り ●知名町ふるさと夏祭り ●瀬利覚川まつり ●盆踊り			●海開き ●海のカーニバル			●四並蔵神社祭り			●和泊町農業祭			●小学生相撲選手権大会沖永良部場所 ●おきえらぶ音楽コンクール ●島内一周駅伝競走大会 ●南日本10kmロード通信大会 ●知名町産業祭(隔年)			●子ども芸能祭(知名町)												
◆沖永良部島の地域資源	農作物を味わう	●サトウキビ			●ジャガイモ			●サトイモ			●マンゴー			●グアバ			●サトウキビ			5月～8月 8月上旬～9月下旬 12月上旬～4月上旬																	
	植物を楽しむ	●ヒカンザクラ			●菜の花			●エラブユリ、アマリリス、グラジオラス			●ハマユウ、デイゴ、サネン花 ●イジュ(ヒメツバキ) ●ブーゲンビリア			●カンナ、サンゴ樹			●フヨウ			●ポインセチア			12月 ハウス栽培(通年)														
	生物を観察する	●ギンガメアジの群れの遊泳			●イソマグロの遊泳			●コブシメ産卵			●イルカの遊泳			●ウミガメ産卵			●サンゴ産卵			12月中旬～4月上旬																	
	体験を楽しむ	島ミカン狩り体験			黒糖作り見学・試食 タンカン狩り体験			タラソテラピー体験・ダイビング体験			島唄とヘルシー料理交流体験・創作料理づくり体験・焼酎づくり見学と試飲体験			石鹸、キャンドル作り体験・陶芸・芭蕉布織り体験・草木染体験・フラワーアレンジメント体験			バーベキューと郷土芸能体験・農作物(ジャガイモ、サトウキビ、サトイモなど)の収穫体験			12月～4月 2月～3月 10月～1月																	
	◆沖永良部島の年中行事、祭礼(旧暦)	若水汲み(知名・瀬利覚)、水神様(和泊各家)、墓正月(和泊、知名)、年の祝(知名)			水神様(和泊各家)			88の年の祝(沖永良部島各家)、盆踊り(知名)			水神様(和泊各家)																										

あまみ観光ごよみ / 与論島

奄美の季節	冬			早春			陽春			初夏			梅雨			夏			晩夏			初秋			霖雨			秋			晩秋			初冬		
奄美の十二季	師走南(シワスパイ)			木崩雨(キブツメ)			桜流し(サクラナガシ)			大流(オオナガシ)			本流(ホンナガシ)			6月日照(ロクガツヒデリ)			盆東風(ボンゴチ)			驟雨(ノシキアメ)			鷹糞雨(タカクスアメ)			糸朽(ノークタ)			寒波(カンバ)			湿润(シツタリ)		
奄美の雑節	一月木崩雨(イチガツキブツメ)			鳥南(トリバイ)			三月赤山(サンガチハーヤマ)			ハシリ、八十八夜			入梅			新南風(アラバイ)			台風襲来、盆アレ			にわか雨(ノークアメ)			新北風(ミーニシ)			牝風(ウナンドレ)			冬至(トウジ)					
本土の四季	冬						春						夏						秋						冬											
月別	1月【睦月】			2月【如月】			3月【弥生】			4月【卯月】			5月【皐月】			6月【水無月】			7月【文月】			8月【葉月】			9月【長月】			10月【神無月】			11月【霜月】			12月【師走】		
上旬・中旬・下旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
◆与論島のイベント							●ヨロンマラソン			●海開き、浜下り			●豊年祭・与論十五夜踊り			●バナウル王国ランドゴルフ大会			●ヨロン島リーフチェック&ビーチクリーンアップ			●ラフウォータースイムinヨロン			●シニグ祭り・祖先祭(隔年で開催)			●豊年祭・与論十五夜踊り			●ヨロン島リーフチェック&ビーチクリーンアップ			●ヨロン・おきなわ音楽交流祭		
◆与論島の地域資源	気象	← サザンクロス(南十字星) →																									1月中旬~5月中旬 春から夏にかけて 大潮の干潮時									
	農作物を味わう																																	8月上旬~10月下旬 8月~9月 7月~9月下旬 6月上旬~9月中旬 12月上旬~4月上旬 9月上旬~11月 11月~1月、4月中旬~8月 12月		
	観察する																																	1~3月 3月~7月、9月~12月 10月中旬~12月 4~7月 6月中旬~9月		
	楽し験むを																																	4月中旬~10月中旬 1月~4月上旬 4月中旬~6月 7~10月 11~12月		
◆与論島の年中行事、祭礼(旧暦)				サンガチサンチ、浜クダリ(与論島各集落)、豊年祭・与論十五夜踊り(与論・地主神社)												お盆(群島各集落)、シニグ祭り・祖先祭(与論島各地)						豊年祭・与論十五夜踊り(与論・地主神社)						豊年祭・与論十五夜踊り(与論・地主神社)								

2-4 各島および奄美群島全体の観光・交流の現状

各島においては、それぞれの島の基幹産業によって観光・交流の種類や推進状況が異なっている。その中で特に何らかの取り組みや方向性を提示することが求められているのが、奄美大島と与論島であろう。

加計呂麻、与路、請の3島を含む奄美大島は、奄美群島全体の観光・交流の推進者としての位置づけの島であるため、観光・交流におけるイメージづくりによる魅力づけや観光の目玉となる資源の確立などとあわせて、島外各地への情報発信の強化が求められている。

与論島については、昭和50年代に観光のピークを経験しているため、島の観光事業者や関係者のなかには、その頃の影響が根強く残っており、現在の入込客数の減少や観光産業の衰退に対する手立てが見つけられないでいる状況がうかがえる。

徳之島、喜界島、沖永良部島の3島は、いずれも基幹産業が農業であるため、一般的な観光・交流については、これまであまり取り組みが行われてこなかったという経緯があるものの、島内各地には、それぞれの島独自の地域資源を見ることができるため、今後の観光・交流推進における利活用方策の検討が求められる状況にある。

2-5 各島および奄美群島全体の観光・交流受け入れ態勢

奄美群島の各島および群島全体で観光・交流推進を行うにあたり、その受け入れ窓口としての機能を持つ組織や団体の整備は最も重要な要素の1つといえる。

奄美群島の各島および群島全体における観光・交流に関わる団体や組織の設置状況や活動内容については、各島の観光・交流の状況により異なっている。

各島においては、それぞれ観光協会や観光連盟が設置されており、活動規模の差はあるが、観光・交流推進団体としての機能を有している。また、奄美大島や喜界島など一部の島では、民間のガイド団体なども組織され、活動も活発に行われていることが分かる。

一方、奄美群島全体の観光・交流受け入れについては、各島の観光・交流推進団体の情報や活動内容をとりまとめ、島外へ情報発信を行う組織機能が確立されていない状況がうかがえる。

今後、奄美群島の各島で取り組まれている観光・交流推進方策や地域固有の団体の活動について、概要および連絡先などの情報を集約し、一元的に管理、発信できる組織整備は、各島および奄美群島全体において早急に進める必要がある。

次頁に、奄美群島の各島の観光・交流推進団体の概要および具体的な活動内容と課題を示す。

奄美群島の島別観光・交流推進団体

島名	団体名	設立年	設立目的	具体的な活動内容	課題
奄美大島 加計呂麻島 請島 与路島	瀬戸内町観光協会(官民連携)	S62年	以前は自治体が担っていた観光受け入れの窓口機能を民間移行するにあたり、行政と民間をつなぐ受け皿組織として設置。	瀬戸内町を訪れる観光客へ観光情報の提供や体験受け入れなど窓口的な業務。観光コーディネーターによる着地型観光の推進。	・決められた年限(3年)の中での観光交流推進体制の確立。 ・地域の観光・交流関連人材のとりまとめの強化。
	奄美大島体験交流受入協議会(行政主体)	H18年	「奄美ミュージアム構想」の「癒しツーリズム」で、「奄美の現地の人との交流が旅の満足度を高める」という調査結果を受け結成された奄美大島の5市町村による組織。	人材育成事業を実施し、「しまコンシェルジュ育成講座」などを開設。現在も活動を継続中。	・新たな人的資源の発掘。 ・育成した人材の観光・交流事業への活用。
	奄美大島観光物産協会(官民連携)	H10年	観光客誘致促進、観光イベントの実施、特産品の市場開拓、販路拡大、全国各地における観光物産店の開催、特産品の情報収集、調査研究などを目的として設立。	島外での物産展開催などを中心とした観光交流の推進に関わる活動を実施。	・奄美大島の観光政策と連動した観光・交流の推進を実施。
	奄美大島観光協会(民間団体)	H4年	当初、奄美観光受入連絡協議会として設立。H21に、奄美大島を全国にアピールすることを目的として奄美大島観光協会に改称した。奄美大島の観光の促進と交流人口の増加を目的に活動。現在50社が会員として加入。	「教育旅行誘致」、「大型クルーズ船誘致」、「エージェン対策」、「スポーツ受け入れ」の各分野について、専門部会や協議会を設け誘致や陳情を行っている。奄美市の観光政策とのつながりが強く、会員の多くが奄美大島観光物産協会にも加入している。	・取り組みの方向性は、教育旅行や大型クルーズ船の誘致などが中心。群島全体の観光・交流推進のために他団体などとの連携を強化。
	奄美大島エコツアーガイド連絡協議会(官民連携)	H20年	奄美の自然環境の持続可能な保全と利用の推進を目的に設立。奄美群島の国立公園化や世界自然遺産登録を視野に、今後、生じる様々な環境問題に対応するための組織。	ガイド事業者の自主ルールの制定や登録・認定制度の確立、技術と意識の向上などに取り組む。特に自主ルールの制定は、随時改正することで状況素早く対応している。	・群島内外へ幅広く活動を周知。 ・自主ルールを他島などへも周知。
喜界島	喜界島観光協会(民間団体)	S38年	喜界島の観光事業の普及発展並びに観光資源の保護活動を行い、会員相互の連携のもと産業振興の充実に努めることを目的に設立。	環境保全活動(植栽及び美化活動)各種イベントの開催(まち歩き観光、ガーデニングツアー、海開き等)に取り組んでいる。	・集落歩きの窓口業務とあわせて、島内外への情報発信やPRなどの強化。
	よんよ〜り喜界島(民間団体)	H21年	喜界島を愛し、もてなしの心をもって先人の思いを次世代へ手渡す活動を行い、そこでの交流の輪を内外に広げていくことを目的とした地域住民によるシマあるきガイドのボランティア組織。	島内5つの集落を「喜界島の奥座敷」として観光客とともに歩きながら案内している。活動のコンセプトは「シマ(集落)の風景をシマツチュ(集落人)が歩きながらご案内」としている。	・情報発信機能の強化。 ・ガイド技術の向上。
徳之島	徳之島観光連盟(官民連携)	S55年頃	平成10年までは、徳之島の3町が持ち回りで事務局を運営していたが、その後、徳之島空港に事務局を設置し、平成21年に民間出身者が会長に就任。徳之島全島を包括した観光・交流推進を目的に設置。	徳之島の観光・交流のPRやスポーツ合宿の誘致活動、島内でのイベント開催のほか、沖縄との第一航空の窓口業務を取り扱っている。	・今後は、体験受け入れなど着地型観光の窓口業務を目指す。
沖永良部島	知名町観光協会(行政主体)	S40年頃	観光事業関係機関及び役員相互の連絡協調のもとに観光地の保全開発、観光事業の促進を図り観光立町の実を挙げることを目的に設置。	観光地の保護ならびに開発整備の促進、特産品、土産品の指導奨励と紹介宣伝、観光施設の整備促進、観光地紹介宣伝及び観光客の誘致案内、町民に対する観光観念普及、観光関係事業者及び各種娯楽機関の連絡指導改善等の促進、観光事業従事者の資質の向上、観光資源の調査研究及び観光地に関する学術的研究資料の作成及び収集。	・将来的には、沖永良部観光連盟として両町の観光協会の合併を目指す。 ・知名、和泊両町合同による観光パンフレットの作成とイベント開催を予定。
	和泊町観光協会(行政主体)	H5年	観光協会関係機関と会員相互の連携強化、観光地の保存開発と観光事業の促進を図るために設置。	観光地の保護や開発整備の促進、特産品・土産物の指導奨励と紹介宣伝、観光施設の整備促進、観光地の紹介宣伝及び観光客の誘致案内、町民に対する観光観念の普及、観光事業従事者の資質の向上などが主要な業務。	
	おきのえらぶプロシューマー「むすび」(民間団体)	H21年	組織名は、プロデューサーとコンシューマーを合わせた言葉で、生産者と消費者などいろいろなものを「むすび」活動を目指し、異業種間の関係構築を行っている。	毎月第4日曜日に和泊町みへでいろ市(持ち寄った商品の販売)を開催しており、H22の3月からは第2日曜日に知名町でも市の開催が始まっている。	・農産物の加工品や特産品開発と販売強化 ・他団体や地域のリーダーとの連携体制による観光・交流の推進。
与論島	ヨロン島観光協会(官民連携)	S40年	与論島の恵まれた自然、文化遺産(城跡など)を観光活用するために設立。地元の旅館業やグラスポート事業者、レンタル自転車業者など観光関連の事業者が会員として結成。	島外でのエージェン対応およびプロモーション活動、島内外でのイベント開催などの取り組みを実施している。	・取り組みに対する効果測定の実施。 ・来島する観光客の基礎データの収集。 ・効果的なPR活動の実施。
	ヨロンの海サンゴ礁再生協議会(官民連携)	H22年	サンゴ礁の再生を含めた島の振興を目的に調査研究の継続と行政や農協、漁協などとの連携体制のうえ、陸の環境保全も視野に入れた活動の実施。	サンゴの再生や海と島の環境保全を目的に大学や研究機関と共同の調査・研究。これまで実施してきた年2回のリーフ・チェックなどの活動。	・島民の幅広い理解と支援の獲得。
奄美群島全体	奄美群島観光連盟(官民連携)	S42年	観光事業関係者相互の連絡協調のもとに観光地の保存、開発並びに観光事業の普及発展を図り、あわせて他の産業との協調を保持し、観光振興に資する。	奄美群島全体の観光客誘致および営業活動、PRイベントへの参加、教育旅行誘致、首都圏および他地域でのPRや誘客イベント実施、マスコミ・旅行業者に対する取材協力などに取り組んでいる。	・群島全体を訪れる観光客への詳細な情報提供 ・群島全体としての観光受け入れ窓口機能の設置検討 ・各島の観光情報の収集と発信および連絡調整

3. 奄美群島および都市部側から見た観光・交流推進への展望

本調査を実施するにあたり、「平成20年度 奄美群島における長期滞在型観光に関する社会実験等」より得られた結果とあわせて、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の各島の観光・交流の現状把握と情報収集および課題、問題点の抽出を目的に、各島と奄美群島全体でワーキンググループ（以下、WG）会議を実施した。

奄美群島の各島で、観光・交流推進に携わる各団体の関係者や個人と行政の観光担当者をメンバーに、平成21年12月から平成22年2月までの3ヶ月間、各島WG会議として、毎月1回のペースで会議を開催した。あわせて、群島全体WG会議として、毎月1回のペースで3ヶ月間会議を開催した。群島全体WG会議では、各島WG会議の結果報告と奄美群島全体の観光・交流推進について議論、検討を行い、必要に応じて島外の委員を交えた意見交換を実施した。

一方、首都圏においても、奄美群島の観光・交流推進および特産品販売などに関わっている関係者、奄美群島の出身者などをメンバーとする都市部側WG会議を2回開催した。都市部側WG会議では、観光・交流の主要なマーケットである首都圏から見た各島および奄美群島全体の魅力や課題、問題点について、意見交換を行った。

各島WG会議、奄美群島全体WG会議、都市部側WG会議のそれぞれの開催スケジュールと検討項目を以下の表に示すとともに、各島・奄美群島全体・都市部側の各WG会議より、各回の開催概要とその議論の中で示された奄美群島の各島および全体に対する地域からの展望についてもあわせて示す。

各島WG会議と奄美群島全体WG会議、都市部側WG会議 開催スケジュールと検討項目

調査の目的	<ul style="list-style-type: none"> 奄美群島の産業や農業、イベントなど島の特性を活かした観光振興方策をさぐる 奄美群島の観光における魅力とターゲット（客層）の明確化 						
WG会議	徳之島	沖永良部島	与論島	喜界島	奄美大島	奄美群島全体	都市部側
第1回開催日	12月7日	12月8日	12月9日	12月10日	12月11日	12月11日	1月14日
議事内容	<ul style="list-style-type: none"> 各島で推進している観光について 各島のイメージについて イベントカレンダーに記載する地域資源の確認 外国人観光客の受入について 					<ul style="list-style-type: none"> 各島WG会議の決定事項の報告 参加者による議論 群島全体の観光推進の課題抽出 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回WG会議の結果報告 第1回 各島WGと群島全体WGを受けての意見交換
第2回開催日	1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月22日	2月9日
議事内容	<ul style="list-style-type: none"> 各島の観光・交流推進の方向性について第1回WG会議の意見まとめと確認 第1回の議論より課題と提案説明、検討 外国人観光客受入について第1回意見まとめと確認、各島の現状に応じた検討 					<ul style="list-style-type: none"> 各島WG会議の決定事項の報告 参加者による議論 群島全体の観光推進方策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回WG会議の結果報告 各島と群島全体の具体的な観光・交流推進方策に関する意見交換 第3回WG会議へ向けて イベントカレンダー（案）について意見交換
第3回開催日	2月15日	2月16日	2月17日	2月18日	2月19日	2月19日	
議事内容	<ul style="list-style-type: none"> 各島の魅力と具体的な観光・交流推進方策（案）について第2回WG会議の結果確認と提案説明、検討 イベントカレンダー（案）提示、検討 各島の外国人観光客の受入方針の確認 					<ul style="list-style-type: none"> 各島WG会議の決定事項の報告 参加者による議論 奄美群島全体WGの結論の確認 	

3-1 各島ワーキンググループ会議からの意見

(1) 奄美大島WG会議からの意見（推進する観光・交流）

- ・体験型観光

農業体験、伝統工芸体験など色々な体験受け入れが行われている。

- ・ガイドツアー

自然観察や散策、子供の頃に遊んでいた島の遊びなどガイドツアーのプログラムは多様。

- ・生活文化を見せる観光

島唄をはじめとする生活文化は、観光客相手の芸能としていない点が沖縄の民謡酒場と大きく異なる。島唄を生業としないところが美德とされているため、さりげなく島唄や生活文化に接することができるような見せ方を模索している。

- ・教育旅行

加計呂麻島、請島、与路島を擁する瀬戸内町では、修学旅行やセカンドスクールの旅行受け入れ、分宿型の受け入れなどを展開している。地域の受け入れキャパシティからも大きな集団で動く観光スタイルには向いていないことを踏まえた観光推進、観光受け入れを実施している。

(2) 喜界島WG会議からの意見（推進する観光・交流）

- ・シマ（集落）あるき

島内にある5箇所の集落について、集落の住民が自ら観光客を案内するガイドツアーが行われている。集落の人が自分の集落を案内することから「歩き、人と人が会話しながら空間や時間を楽しむ」ことを目的とし、各集落で1時間～1時間半程度のツアーの受け入れに対応している。

- ・酒蔵見学

黒糖焼酎が縁で蔵元の朝日酒蔵を訪ねてくる人が年間100人以上（月に数組）おり、1～2泊する。酒蔵見学とあわせた島の案内も行っており、原料の栽培から黒糖焼酎を作っている環境も含めて販売するという考え方のもと、原料のサトウキビ畑の見学や刈り入れ作業体験、製糖体験なども実施している。

- ・スキューバ・ダイビング

隆起珊瑚礁の島のため海水の透明度も高く、ダイビングに良いポイントが多い。ポイントを選べば1年中楽しめる。

- ・学術的価値の高い地域資源を活かした観光

最近注目されているグスク遺跡群、軍事遺構、日本最大級のものがみつかったハマサンゴ、アサギマダラ（渡り蝶）、オオゴマダラ（大型の蝶、黄金色のサナギ）、薬草など学術的にも興味をひく対象が多数あり、今後、観光・交流への活用を考えている。

- ・その他の観光資源を活かした観光

集落めぐりや酒蔵見学などの観光プログラム以外に、ガーデンツアー（住宅の庭を見るツアー）、薬草ツアー、追い込み漁体験などの受け入れ実績がある。また、特産品については、柑橘類（けらじみかん等）やシロゴマなどの農産物が多数生産されており、町営の加工センターが商品開発を行っている。特徴も含めたPR、商品販売なども始まっている。

(3) 徳之島WG会議からの意見（推進する観光・交流）

・スポーツ合宿

天城町を中心に、以前より陸上競技（特にマラソン）の選手や関係者の来訪が多く、現在は実業団の陸上やマラソンチームが強化合宿に訪れている。尚子ロードやクロスカントリーコースなどが整備されている。合宿やスポーツイベント（トライアスロンなど）で来島する関係者と地域の子供たちとの交流も行われている。

施設整備などを考えると、全天候型の施設が必要となるプロ野球の合宿は難しい。

・闘牛

闘牛は、沖縄や宇和島など他地域のような観光目的ではなく島の年中行事として1、5、10月に大きな大会を開催している。

観光活用は、大会の開催時期以外で対応し、団体を受け入れる場合は、大会の際の座席の確保などの課題が残る。

・自然資源を見せる観光

アマミノクロウサギの生息地のある天城町では、観察小屋を整備している。徳之島の3不思議の一つ「畑の中の海：ウンブキ」も今後、整備が予定されているが、現在は観光資源として活用は十分に行われていない。

・体験型観光

今後は、「見る観光」に「体験する観光」をどう組み合わせて発信してゆくかが課題。現在、行われている体験は、「追い込み漁」が主要なもので、島内の小学生を対象として受け入れが行われている。昼間の追い込み漁と夜間の星空観測を組み合わせ実施した実績などもある。

(4) 沖永良部島WG会議からの意見（推進する観光・交流）

・農業を使った観光

農業は島の基幹産業であり、島の年間入込客数8万人のうち農業視察の来訪者が大半を占めているものと推察される。農業も、観光資源の一つとして重要な要素であり、農業視察の来訪者にも楽しんでもらえる観光・交流推進をどのよう行うのかが課題である。

また、農業先進地として農業を発展させていくことが、来訪者の誘致にもつながる。

・ウミガメの観察

島内のほとんどの砂浜でウミガメが上陸・産卵し、その数は屋久島に次いで多いと言われている。沖永良部島ウミガメネットワークのホームページに上陸ポイントも掲載されている。島内でウミガメを間近に見られるのは和泊町のフーチャ、高いところから見られるのは知名町の田皆岬である。ウミガメは、夏場は30分に1度、冬場は50分に1度は呼吸のため水面に顔を出すため、フーチャでは5分に1匹ぐらい見ることができる。

・洞窟や湧水など自然資源を使った観光

島内に300を越える洞窟があり、一般の観光活用は1箇所だけで行っている。他の洞窟では、探検プログラムを行い、夏季には多くの大学の探検部や調査グループが来島する。近年、日本で2番目に長い洞窟(L=12.0km)が発見されたこともあり、洞窟でガイド付きの探検ツアーを行いたい。洞窟探検は、海が荒れている時のダイビング客の対応も含め、農業などを組み合わせた体験プログラムへと展開し、リピーターも増やしてゆきたいと考えている。

- ・ヨットマンの寄港の受け入れ

毎年、知名漁港に国内および世界各国のヨットが 50～60 隻程度寄港する。

- ・体験や移住・交流の受け入れ

ダイビングの受け入れ強化を島全体で取り組んでおり、小細工をせず、自然を観光に活かしていきたい。

島全体で推進している体験、移住プログラムは、団塊の世代を対象に考えている。

(5) 与論島WG会議からの意見（推進する観光・交流）

- ・きれいな海を活かした観光

与論の魅力は「きれいな海」なので、珊瑚の保全と合わせ、それをもっと活かしてゆく。ダイビングや海を使った観光受け入れ、グラスボートなどは以前から実施している。

ダイビング客の中には、サンゴの植え付けをしたい人は多いと思うが、植え付けの観光活用という面ではまだ検討していない。サンゴの苗床を東京の環境関係のイベントで見せたら、興味を持つ人は多く、参加させて下さいという人も多かった。サンゴの保全活動では、リーフ・チェックというサンゴの調査を年 2 回実施しており、10 年目になる。リーフ・チェックの取組みを評価してもらい、サンゴの再生・保護の推進につなげていきたい。

- ・様々な体験型観光

オオゴマダラのような蝶を楽しむための餌となるホウライカガミなど植物の植栽なども始めている。

- ・教育旅行

修学旅行誘致を積極的に実施しており、その中では、沖縄との連携方策を模索している。

(6) 各島WG会議からの意見について

いずれの島においても、推進する観光・交流への展望や活用したい地域資源が複数あることがわかる。これらの地域資源の中には、既に観光・交流への活用が始まっているものから、今後の展開を期待しているものまで、観光資源としての成熟度は様々である。

また、観光・交流への利活用に際しては、解決すべき制約や関係者間の合意形成、受け入れ体制の整備等が必要なものもいくつか見られる。

今後、観光・交流推進に向けた取り組みを進めていく際には、ここに示されている地域資源のなかから更に取り捨選択を迫られることも想定し、各島や地域としてどの地域資源を観光・交流推進の主軸として位置づけ、取り組みを進めていくのかについて熟慮することも必要である。

3-2 奄美群島全体ワーキンググループ会議からの意見

(1) 奄美群島全体の観光・交流における魅力について

- ・都市部では、沖縄のように観光地化されていないことが魅力とされている。大島海峡の夕日などはもっとPRしたほうが良い。奄美を知らない人に対して、沖縄との違いを明確に出していくことも必要。
- ・徳之島の長寿の島というイメージの裏づけとなる食文化や特産品のPRも必要。
- ・東京で味わえない人との濃い付き合いや人の温かさが心地良く、人の魅力に惹かれて移住した。

奄美群島のリピーターになる人は、「島の人」に出会っている人だと思う。

- ・ツアー客は観光施設をまわるだけなので、それでは島の良さが何も残らない。ツアーの中のどこかで島の人と接する機会を持つことができれば、また来たくなるのではないか。
- ・加計呂麻島に必ずツアー客を連れて行くようにしている。東京では味わえない、他の観光地にない良さは箱物の観光施設を見るのではなく、のんびりできるところであり、そこから島の良さを感じることができる。

(2) その他の意見

① 航空運賃

- ・航空運賃は高いが、入込みの変化は微減程度である。あまり減らないのはなぜか、を考えてみることも必要。運賃が下がればお客様が増えるかどうかはわからない。
- ・運賃の問題はよく聞く。沖縄が大量輸送や、米軍がある関係で国から手厚い補助があると聞いており、コストも運賃も安い。距離の割には、東京ー奄美（片道 1,436km）より、東京ー那覇（片道 1,687km）の方が安いという逆転現象がおきている。東京ー奄美便は 163 人乗りで 1 日 1 往復で、搭乗率は 70% ぐらいである。
- ・航空運賃が高いという話はあるが、高くても奄美には年間 40 万人が来てくれている。
- ・飛行機代が高いことが解決できたら、ある程度のことは解決できると思う。現状では海外に行くより高い。リピーターにとっては、安ければもっと行きたいという人が出てくる。
- ・奄美群島の自然（特に海）に魅力を感じている人が多いので、航空運賃高を解決できると良い。
- ・運賃が下がって安いパック旅行が増加し沖縄みたいな観光地にならないよう注意する必要がある。

② 奄美の観光全般

- ・離島観光では、大きなホテルがあれば客を呼べる、という発言をよく耳にするが、奄美に来てみると決してそういうところだとは思えない。大きなホテルがなくても現状が悲観的な状況というわけでもない。観光は健全な状態で、持続的に発展することが大事である。ニーズにおいても質においてもそうだと思う。
- ・一昨年、東京のサラリーマン 1,000 名にアンケートをしたが、多くの方々が、奄美という地域は特別なところと感じているようで、「そっとしておきたいところ」、「掘り出し物」など、通常の観光地とは異なる印象を持たれている。
- ・案内人がどれだけいて、見せ方はどうか、というようなことが非常に大事。広く浅く見てまわるような観光を目指すのではなく、深く掘り下げる形のもものが奄美には必要。
- ・ガイドの育成が必要。島の良さを感じてもらえるように、個人客もガイドとまわった方が良い。
- ・奄美群島の観光振興を考えるなら、観光客は増えたほうが良い。ただ、沖縄のようにしないための観光のやり方考えるべきであり、それは観光客を増やさないということではないと思う。「奄美群島としての観光のさせ方」をどうするのか、を考えるべきであり、「観光のさせ方」をしっかりとさせることで、人や自然といった奄美群島の観光の鍵となるものが活かされる。

③ ターゲットとなる客層

- ・より具体的で細かなターゲットの絞りこみをして、それに対応した整備、ツアーの設定をすることが必要ではないか。20 代の女性や 50・60 代の夫婦などに具体的に絞り込むことが必要。例えば、夫婦で 50 歳を超えると、散策に目が向く人が多くなる。島にもそれに対応したメニュー

ーがあるといいのではと思う。ターゲットに合わせて色々なメニューが考えられるだろう。

- ・来る前から目的がはっきりしてきて来る人は、それが達成されれば満足感を十分に感じられる。個人の思いは色々と思うので、絞り込んだターゲットに的確に対応することで、新たな奄美ファンを掘り起こせるのではないか。

(3) 奄美群島全体WG会議からの意見について

奄美群島全体の観光・交流における魅力をはじめとする多くの意見のなかで、「沖縄との差別化」や「沖縄のようにならない」という意見が多数見られた。これは、都市化や観光地化が進んでいる沖縄本島の強いイメージから出てきた意見であるものと考えられる。

沖縄との違いを観光・交流推進のなかで、観光客にどのように見せ、体験してもらうのか、ということは、奄美群島全体としての大きな課題であり、多くの関係者や有識者などを交えながら、今後も議論や検討が必要な要点と位置づけられる。

次いで、多くの関係者が指摘する航空運賃の問題が挙げられる。航空運賃については、より安価で沖縄並みの価格を望む声もある一方、航空運賃の価格が下がることで生じる沖縄のような観光地化に対する懸念や危惧といった意見もあるため、意見が二分する要点と考えられる。

奄美の観光全般で見られた意見のなかには、現状に対する肯定やガイドの人材育成の必要性、観光のためのルールづくりなど、いずれも奄美群島に現在も残されている環境や地域資源を想定したものと考えられるものが見られた。

奄美群島の観光のターゲットについては、より絞り込むことや絞り込んだターゲットの満足度を高める必要性が示されている。

3-3 都市部側ワーキンググループ会議からの意見

奄美大島

- ・金作原などの入山制限や規制の強化については、観光客や旅行代理店を遠ざける危険性があり、神経質にならないほうが良い。
- ・奄美大島の大浜の海がきれいだというが、きれいに見えることと海水中の養分が多いことは違う。もっと時間をかけて地元で腰をすえている人を入れて議論すべき。
- ・海上タクシーで、加計呂麻～請島～与路島（できれば徳之島まで）の島巡りの観光などができれば魅力的。加計呂麻島は、奄美の宝だと思う。
- ・与論島と沖縄との連携については、沖縄からの船のツアーがあり。JTA が旅行商品を販売している。沖縄は与論島を視野に入れた観光を行っている。与論島が好きな人は、以前のブームを知っている年齢層が高い人たちなので、少し金額は高くてもゆっくりと楽しめるような旅が良い。島全体で料理の講習会や食材の発掘を行うことも良い。
- ・奄美には大きなホテルと大型のバスは要らない。未舗装の道を小さなバスに揺られて移動するような「田舎らしさ」を楽しむべき。日本の原風景がある。
- ・沖縄との具体的な違いを考えると、海にも山にもすぐに行けるという手軽さがある。自動車で島内を移動していても、きれいな海を見る機会が多い。島が小さいので、どこからでもすぐに海が見える。
- ・「あまみシマ博覧会」などのイベントは、企画段階から都市部側のアイデアを取り入れてほしい。

喜界島

- ・喜界島は農業があるので、観光をやらなくても良いのではないかと思う。島の人は観光業というものの自体を知らないし、農業の島なので観光という意識はない。グスク遺跡群があるというが、農地改良で出土したものなので保存ができるのか、と思う。巨木や軍事遺跡は、行って見たらおしまいという印象しかない。酒蔵見学は、黒糖焼酎が造られる仕組みが分かり楽しかった。3～4時間は楽しめると思う。他に観光魅力がない。
- ・東京にいて島の魅力を考えるとき、花粉症が無いことや気候が温暖なので脳卒中などのリハビリなどの人を受け入れることが良いのではないか。情報発信は、観光の核となるものだけでもホームページを整備したほうが良い。

徳之島

- ・昔からあるメインの観光ルートの他の奥にあるものも知られてきている。お社や踊りなどを見たり、集落の人の家を訪れた島外の人と一緒に食事をしたりして楽しんでいる。徳之島も歌の力を活用すべき。犬田布岬を取り上げた「あゝ犬田布岬」という歌を島の出身の若い歌手の人などにリメイクして歌ってもらっても良いと思う。

与論島

- ・首都圏で暮らしている与論島の出身者の多くが島のために何かをやりたいと考えている。首都圏でイベントを行うのなら、東京にいる与論島出身者を企画段階から参加させてもらいたい。そうすれば良いアイデアを出すことができる。

沖永良部島

- ・沖永良部島には、未開拓の地域資源が沢山あるので、特産品の商品開発や製造、それに関連する企業誘致などに活用できる。素地は多いので、島の人による組織作りも可能と思われるが、地元がその価値に気付いていない。商品づくりにおいては、デザインやパッケージが沖縄に負けないものを作るべきであり、そのマーケットは、距離的にも近い香港、台湾などが良いと思う。

圧倒的に多かった意見が与論島の観光・交流に対するものであった。都市部側の委員の中には、与論島観光の最盛期を知っている人もいるためにこのような結果になったものと考えられる。さらに、与論島のPRイベントの企画段階から都市部側の視点やアイデアを導入したいという熱意のある意見も見られた。

航空運賃が高いことについては、奄美群島全体WGでも見られた意見である。

奄美群島全体の魅力としては、「田舎の良さ」「海と山が近い」といった意見が見られた。

4. 各島・奄美群島全体の観光・交流推進方策の方向性

4-1 奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島の観光・交流推進方策の検討結果

観光・交流推進の核は「海と山の自然資源」と「生活文化の体験」、「特産品と食」だが、その他に伝統芸能や年中行事など多くの潜在的な「その他の地域資源」がある。

- 奄美大島の観光・交流推進の核は、奄美群島の他の島に比べ範囲も広く、担い手も多く規模が大きい。
- ガイドは、既に多くの組織や人材があり、経験年数の長い人もいる。これは奄美大島の観光・交流推進における人的な資源といえる。既に取組みが行われているが、群島内の他の島のガイドやガイド団体に対しての指導的な役割を果たすことが期待できる。
- 奄美大島の観光情報の発信は、今後も効果的な発信先と発信方策を検討する必要がある。また、特産品や土産物の商品開発は、島内の人だけで妥協した商品を作るのではなく、島外および都市部の人の視点にたって進めていくことが必要であり、そのための体制づくりも重要になる。

魅力を伝える紹介文（メッセージ）

- 笠利エリア：南の島らしい白い砂浜、青い海と空、白い雲、サウキビ畑の広がる見晴らしの場所
- 龍郷エリア：西郷南洲謫居の地。亀甲みだれ積の琉球石垣が残り、ソテツ、バショウが群生する歴史ある場所
- 名瀬エリア：美しい大浜海岸や亜熱帯植物の原生林が生い茂る金作原の自然と繁華街が隣り合う場所
- 大和エリア：西側に沈む夕陽がネリヤカナヤの信仰を思い起こさせる、奄美大島のサウキビ栽培発祥の地。
- 宇検エリア：アマミノクロウサギやオオトラツグミなど、奄美の固有種が集まる森と山のある場所。
- 住用エリア：自動車から降りてゆっくり歩けば、川や滝、マングローブなどが楽しめる場所。
- 瀬戸内エリア：海上タクシーとフェリーが行き交う大島海峡や古い集落の昔ながらの風景を見られる場所。



奄美大島の
主要な
観光
資源

▲場所ごとに表情が異なる海



▲山岳部の亜熱帯の植物



▲店ごとの特色がある鶏飯

4-2 喜界島の観光・交流推進方策の検討結果

観光・交流推進の核は「歴史的な集落景観」と「黒糖焼酎の酒蔵見学と体験」、「スキューバ・ダイビング」と、島内に点在する学術的な価値の高い地域資源を「その他の地域資源」としている。

- 「歴史的な集落景観」で、集落の人が案内を行う集落あるきの5つのコースからなるツアーは今後の観光・交流推進の中でガイドや地域全体の魅力を高めていくことが必要。
- 「黒糖焼酎の酒蔵見学と体験」は、1企業の取組みにしてしまうのではなく、地域全体としての観光・交流推進と結びつけて考えていく。酒蔵見学では、国内の先進地域である、灘（兵庫県）や半田（愛知県）、伏見（京都府）など地域と酒蔵による取組みやニッカの蒸留所（北海道・余市、宮城県・仙台市）が行っているウィスキー作りの体験など他地域の事例も参考になる。
- 「その他の地域資源」は、学術的な価値の高いものが多いため、保全と観光・交流推進のバランスを考え、受け入れ体制を整えてから公開や見学ツアーの実施というステップを踏まえて進める。
- 農業の島としての特産品や名物、地元ならではの料理の提供を地域全体で強化し進める。町が運

営している加工センターや吉野シェフ*など核となる施設や人物との連携は重要。あわせて、喜界島ブランドの農産物や特産品の開発で、島としての知名度を高めることを検討する。

*フレンチレストラン タテルヨシノオーナーシェフ

魅力を伝える紹介文（メッセージ）

- 喜界島……歴史的な5つの集落(琉球国との激戦地・海軍戦跡、高倉、下り井戸など昔の風景・古 ^{いにしえ}からの喜界島の表玄関・珊瑚の石垣とガジュマル防風林の家並み)とそこで暮らす人ありきの島

喜界島の
主要な観光資源



▲サンゴの石垣が残る集落



▲黒糖焼酎の酒蔵見学



▲飼育も進むオオゴマダラ

4-3 徳之島の観光・交流推進の課題と検討結果

観光・交流推進の核は、「スポーツ合宿」、「闘牛」、「追い込み漁や海での体験観光」に加え、食事の提供や土産物に関わる「特産品開発」と今後の観光・交流への活用が期待される「その他の地域資源」という構成になっている。

- 観光情報の発信は、島の観光情報を集約した徳之島観光連盟のホームページのほか、闘牛情報や伊仙町の農産物直売所「百菜」など、それぞれの主体がホームページを整備し、情報発信を行っているが、いずれのホームページにおいても観光・交流の受け入れ窓口となる機能は設置されていない。今後は、徳之島観光連盟のホームページなどに、闘牛大会時のツアー受け入れや夏季の追い込み漁体験の申し込みや問い合わせといった窓口機能を付加する必要がある。
- ガイドは、闘牛や追い込み漁の体験など、観光客への解説が必要な観光資源があり、専門知識を持つ地域人材はいるが、体系的な組織整備が行われていないため、ガイド人材のリスト化や登録を進め、モニターツアーを開催するなどして実地によるガイド技術の習得やガイド育成を早急に進めることが求められる。必要に応じて、他島のガイドによる研修なども検討すべきである。

魅力を伝える紹介文（メッセージ）

- 徳之島……日本一迫力のある闘牛、世界で一番大きく強い牛のいる島

徳之島の
主要な観光資源



▲牛舎でも見られる闘牛の牛



▲マラソンコースの尚子ロード



▲島内で生産されている商品

4-4 沖永良部島の観光・交流推進方策の検討結果

島全体の観光・交流推進の核は「農業」、「ウミガメ」、各町の観光・交流推進の核は知名町が「洞窟と湧水・鍾乳洞」、「ヨットの受け入れ」で和泊町が「花、ため池（いずれも農業に含む）」と「その他の地域資源」に含まれる「タラソおきのえらぶ」、「ダイビングの受け入れ」となっている。

- 農業は、島の基幹産業でもあるため、視察の来訪者にも楽しんでもらえる観光・交流方策として

農産物やその加工品の開発、製造の強化が考えられるほか、和泊町だけでなく、知名町でも開催することで毎月2回の開催が予定されている「みへでいろ市」も観光・交流推進の1アイテムとして取り込み、沖永良部の観光資源としてPRするなど考えられる。

魅力を伝える紹介文（メッセージ）

●沖永良部島……赤土と暖かい太陽の恵みを受けた元気なお野菜がとれる島

沖永良部島の
主要な観光資源



▲直売所に並ぶ地場産野菜



▲地域の水源でもある洞窟



▲日本一大きいガジュマル

4-5 与論島の観光・交流推進方策の検討結果

与論島の観光・交流推進の核は「きれいな海」、「人情にあつい人の魅力」であり、多くのリピーター客が来島している一方、与論島全体としてみた入込客数は下落が続いている。入込客の目標数値は12万人だが、その数値が適正であるのかを見直すことも必要になる。

- 現実を見据えた入込客の目標数値設定とあわせた誘客戦略を考え、集客圏としての九州（福岡、鹿児島）などの近距の地域や都市に着目することも必要。九州圏を対象とした手ごろな旅行商品づくりなどイベント以外の誘客は、島内のリゾートホテルとJACが始めている。
- 島内で、様々な体験受け入れが行われているが、体験の受け入れ主体間の連携や行政と民間の情報共有が不足している。3月に結成される「ヨロンの海サンゴ礁再生協議会」が情報共有の場としても機能することが望まれる。
- 特産品は、島に来て味わってもらうことでお客様をつかむことが重要。そのためにも与論の特産品の味や品質をお客様が買いたくなるものにすることを目指す。
- 島外での与論島の知名度は入込客がピーク時の頃とは変わってきており、特に若年層には知名度が低い。インターネットによる情報発信など若年層の観光客を呼び込むための窓口機能が必要。
- 沖縄の観光業界や学術研究での連携は緊密に行われている。今後もこのような民間レベルでの沖縄との連携を強化し、行政による働きかけを行いやすくする環境を形成する。

魅力を伝える紹介文（メッセージ）

●与論島……名前のある60の砂浜・リーフに囲まれた内海と外海・エメラルドグリーングラデーシヨンの海に囲まれた島。

与論島の
主要な観光資源



▲多くの白い砂浜と海の風景



▲昔の生活文化の展示施設



▲与論献奉による人的交流

4-6 奄美群島全体の観光・交流推進方策の検討結果

(1) 奄美群島全体としての観光資源（自然環境）の保護と今後の方針

- 開発が進んだ沖縄の自然環境との比較などから、奄美群島の自然とそこから生まれた生活文化を守りながら観光・交流推進を進める必要がある。
- 自然環境や生活文化の保護は今後、より多くの関係者や地域の人々の意見を集めながら、その方針や基本になる考え方である『観光のルールづくり（奄美群島でどんな観光をしてみようか）』を検討し進めることが求められる。

(2) 奄美群島全体としての観光資源（歴史文化）の保護と今後の方針

- 約 200km の海上に点在する島嶼群の中に、背景の異なる歴史や文化が今日においても垣間見られる点は、奄美群島の大きな特徴であり魅力といえる。
- 歴史的、文化的背景の異なる島嶼群を強引にまとめるのではなく、個々の島の歴史や文化の経緯に沿った無理のない観光・交流推進が望まれる。

(3) 奄美群島全体の観光・交流推進の核となるもの

- ・**地元の人とふれあうことでつながりを感じさせ意識を高める。**それが満足度につながり、リピーターになる。
- ・**リピーターになる人は、島の人に出会っている人たちで、人とふれあうとまた来たくなる。**
- ・ツアーは施設をまわって帰るだけで、島の人と話す機会がほとんどない。一つでも**島の人たちと接する時間があれば、良さを感じてまた行こうと思ひ、リピーターが増えるのではないか。**
- ・集落ごとの人の団結、伝統にふれ、**人とのつながりを感じられると、都会にない良さを感じる。**
- ・**ガイドをする時、地元の人に引き合わせるようにしている。**その中で自分の友達や案内したところの人に会わせたりすると、**ガイド以外の島での知り合いができて、見ず知らずの島が「友達のいる島」にかわる。**
- ・**キーワードは「人」と「自然」の魅力。**
- ・農作物やお祭りイベント、クジラウォッチングなど**季節によって多様な奄美の姿を見ることが出来るため、季節毎の楽しみ方を伝えることで、異なる季節にまた行こうと思ひ、リピーターが増えるのではないか。**

▼(1)～(3)を踏まえ▼

- ・海や山に残されている自然環境……開発が進んだ沖縄本島との最大の違い
- ・島嶼群に重層する多様な生活文化……島ごとに異なる歴史や文化の背景
- ・案内する人や島で出会う人の魅力……島の人に接することで島の良さが伝わる

- 各島にはそれぞれ観光・交流推進の核となるものがあるが、いずれの島も基本になるものは、「**良好な自然環境**」、「**多様な生活文化**」、「**島の人々の魅力**」といえる。この3点が奄美群島全体の観光・交流推進の核であり、島ごとの特徴を踏まえた多種多様な観光資源があり、また、それらを取り巻く奄美特有の季節感とともに楽しみ方や味わい方を考えていく必要がある。

(4) 奄美群島全体としての魅力を伝える紹介文（メッセージ）

奄美群島全体の魅力やイメージを伝える紹介文（メッセージ）は、各島および、奄美群島全体WG会議においても具体的かつ明確な単語や固有名詞、文言などを得ることが困難であった。

その理由として、奄美群島のいずれの島もそれぞれの歴史的、文化的背景が異なるとともに、

今日においても、各島間の交通の利便性の問題もあり、各島において奄美群島全体を俯瞰もしくは、一体的に捉える視点や感覚が形成しにくいまま、現在にいたっているものと推察される。

奄美群島全体WG会議第より、奄美群島全体の魅力やイメージに関する代表的な意見を示す。

- ・与論島から喜界島まで、自然環境がかなり違い、島によって力点の置き方も違うので、統一的に扱うのには無理がある。各島々が持っている特徴を出して全体を売り出すことがいい。
- ・各島に共通する部分と異なる部分があり、各島の個性の集まりが魅力なので、それを見せる方法を工夫する。
- ・「沖縄よりいい」と思ってもらえるようになる必要がある。沖縄と一緒に部分と違う部分をはっきりと出すようにする。
- ・「沖縄・先島」と「屋久島」にはさまれた位置にある奄美群島には、沖縄と屋久島の自然が混在している。「沖縄と屋久島の両方が見られる」という売り方を考えてはどうか。
- ・東京のエージェントに、奄美は沖縄や鹿児島より「地味」だと言われるが、「地味」を売ってゆくのもいい。地味なりのインパクトのあるキーワードやキャッチフレーズを考えて売る。群島の中で共有できれば、各島のキャッチフレーズが集まって発信できる。
- ・島唄や三線を楽しむなど、楽しさが奄美の観光の中に根付き広がれば、中長期の滞在型の観光が定着するのではないか。そのためには、奄美の熱狂的なファンづくりが大切である。各地域が色々な取組みをしているので競争になる。取り残されないためには、慎重かつスピード感があることが必要である。

●上記の意見とあわせて、奄美群島全体の魅力やイメージは、個々の島の歴史・文化・生活風景の違いをいかに連想させられるのか、が要点となる。各島および奄美群島全体での観光・交流推進の核を定め、それらを使った観光・交流を進めるなかで「奄美群島全体の魅力やイメージ」とは何であるのかを、さらに多くの関係者と学識経験者を交え、時間をかけた検討を行うことが求められる。今後、奄美群島全体の魅力を伝える紹介文(メッセージ)を検討するためには、各島での観光・交流推進とともに「奄美群島の中の1つの島」という意識醸成を進めることが必要である。

(5) 各島と奄美群島全体の観光客受け入れキャパシティ

観光・交流推進方策の検討とあわせて、奄美群島全体および各島の観光客の受け入れキャパシティの現状を把握する必要がある。平成21年8月現在の群島全体および各島の宿泊施設数と受け入れキャパシティを以下に示す。

島名	自治体名	宿泊施設数	受け入れ(個人)	受け入れ(団体)
奄美大島	奄美市	52	2,043	2,269
	大和村	8	186	186
	宇検村	6	120	240
	瀬戸内町	42	658	742
	龍郷町	14	432	447
奄美大島合計		122	3,439	3,884
喜界島	喜界町	17	325	441
徳之島	徳之島町	18	644	746
	天城町	6	358	358
	伊仙町	3	49	120

徳之島合計		27	1,051	1,224
沖永良部島	和泊町	13	414	513
	知名町	4	181	192
沖永良部島合計		17	595	705
与論島	与論町	30	1,986	2,246
群島全体		213	7,396	8,500

また、奄美群島全体として目標とする観光客数は以下のとおりである。

- 農業・観光／交流・情報 振興計画基本方針では、H25年度の目標は83万人。
- 奄美群島振興開発計画／平成21年では、H25年度の宿泊観光客数の目標は100万人。スポーツ合宿の目標は、200団体(合宿数)3万人(延べ参加者数)。クルーズ船入港の目標は、20隻(入港数)7,500人(乗客数)。

奄美群島全体の観光客の受け入れキャパシティの現状の数値を一日の群島全体の観光客受け入れ人数として、365を乗算すると約310～270万人/年となる。

(6) 観光・交流推進が各島と奄美群島に及ぼす影響について

奄美群島全体の観光・交流推進を検討するなかで、観光・交流が各島および群島全体に及ぼす影響について、取り組みの初期段階から関係者および受け入れ地域側として、予測しておくことが必要である。さらに、予測される望ましい影響と望ましくない影響を勘案し、各島や地域としてどのような規模の観光・交流推進に取り組むべきなのか、を検討することも、円滑な観光・交流推進のためには有効である。

各島および何れの地域においても観光・交流推進が及ぼす影響には、望ましいものとそうでないものが考えられる。想定されるこれらの影響を元に、奄美群島で考えられる観光・交流推進による影響には以下のようなものが挙げられる。

望ましい影響	望ましくない影響
◎交流人口の増加	▲交通渋滞や混雑など生活環境の悪化
◎群島内の消費活動の活発化	▲動植物へのインパクトの増加と自然環境の破壊
◎認知度や知名度の向上	▲住民のプライバシーへの他者の介入
◎ある程度の経済活性化、	▲過度の繁忙
◎一定規模の社会基盤整備の充実 など	▲犯罪の増加 など

- 上記の望ましくない影響を軽減するためには、奄美群島全体として観光・交流を受け入れるためのルール作りも必要になる。

5. 奄美群島における東アジアからの外国人観光客の受け入れ

5-1 各島および群島全体の外国人観光客来島の現状

(1) 奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島

- ・東アジアの観光客は、日食時の来訪があったが、言葉を交わさないと日本人か否かが分からない状態。バスや観光業者は、言葉が通じないことから多くの問題があった。
- ・2年前からアイルランドからのハネムーン客が来ており、これまでに7組来島した。ジョーカーアドベンチャーというベルギーの旅行代理店からの送客もある。ホームページを見て奄美大島を知ったため、世界中に情報発信が可能なインターネットによる情報発信やホームページの整備は重要であることがわかる。
- ・前もって来ることがわかっている来人には対応できる。奄美大島には、英語に対応できる団体は多数あり、中国に行って戻って来た人も多い。韓国語の対応は難しい。
- ・団体なら添乗員がいるので良いが、個人客が増えると大変。空港など大勢の外国人客がいるところでは案内やサインで対応できるが、山や原生林など島の奥に入ったら対応できない。
- ・スポーツ合宿など特定の目的以外で、奄美大島を訪れる外国人観光客は欧米人が多い。その多くが、1ヶ月程度の休暇の中で船を使って訪れており、海と山の観光が両方とも手軽に楽しめることを評価している。

(2) 喜界島における外国人観光客の来訪状況

- ・一般の観光客としての外国人客は皆無という状況。学術調査や研究目的の大学の教員や留学生などの来島がある。ALT*の講師とその家族も来ることがあるが少数。平成21年の皆既日食に外国人客が来たが、予測していたほどの人数ではなかった。外国人客が増える要因としては、奄美の世界自然遺産登録が考えられる。*ALT: Assistant Language Teacher/外国語指導助手の略称。

(3) 徳之島における外国人観光客の来訪状況

- ・一般の観光客としての外国人客は来ない。韓国人の陸上選手が合宿を行っている。

(4) 沖永良部島における外国人観光客の来訪状況

- ・一般の観光客としての外国人客の来訪はない。島内の農家に中国からの就労者がいるが、その家族が観光に来ることは、経済的な理由から考え難い。ヨットで寄港する外国人客は、オーストラリア、カナダ西岸、アメリカ、イギリス、オランダ、スペインなど西洋各国の人が殆どである。

(5) 与論島における外国人観光客の来訪状況

- ・単なる観光客としての外国人客は皆無だが、韓国や中国から琉球の文化や歴史の研究目的で教授と学生が来る。沖縄に駐留している米軍関係者とその家族がキャンプに来るが、自動車に食料やテントなどを積んで来るため、島内への経済効果は薄い。

(6) 奄美群島の各島における外国人観光の来訪状況

奄美群島の各島の中で、一般の観光を目的とした外国人観光客が訪れている島は、奄美大島のみであり、その他の島については、スポーツ合宿や学術研究など明確な目的を持って来島する外国人

客以外は、殆ど来訪していない状況であることがWG会議の意見交換などからうかがえる。

また、各島における一般の外国人観光客の受け入れ体制については、奄美大島以外の殆どの島が宿泊施設や言葉などの点について、体制が整っているとは言いがたい状況にある。

奄美群島への外国人宿泊観光客数は、平成20年度の鹿児島県の統計資料では、1,805人となっている。また奄美市の調査結果からは、群島全体の外国人宿泊客の約1/3にあたる681人が奄美市内の宿泊施設を利用していることがわかる。ただし、複数のリゾートホテルが立地している龍郷町や多くのペンションや民宿がある瀬戸内町の来訪者数は含まれていない点を考慮すると、奄美大島全島に来訪、宿泊する外国人観光客は、さらに多いものと考えられる。

5-2 外国人観光客受け入れに対する各島・奄美群島全体ワーキンググループ会議の結果

(1) 奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島における外国人観光客の受け入れ方針

・ 今後は、台湾、上海（中国）、ソウル（韓国）からの観光客、中国からの修学旅行などにどう対応するか、どのようにして奄美に来てもらうかが課題である。内地だと温泉があるが、奄美では何が魅力となるのかを考えなければならない。中国の修学旅行は、中学校1～3年生の希望者が参加するため、修学旅行の誘致を検討している。台湾では、中孝介の島唄の人気があるため、彼の出身地ということで、奄美大島に興味をもっている人が多い。今後、島唄や中孝介などにちなんだツアーなどは考えていきたい。

(2) 喜界島における外国人観光客の受け入れ方針

・ 外国人観光客の受け入れは、単なる観光客ではなく学術的価値のある資源を対象に、調査や研究を目的とする研究者や学生、その他の専門家など、明確な目的を持っている人の受け入れと彼らに対する情報発信を進める。同様の目的を持つ国内客の受け入れとあわせた体制づくりを目指す。

(3) 徳之島における外国人観光客の受け入れ方針

・ 外国人観光客の受け入れについては、現在は単なる観光目的の来訪が皆無に近いとため、陸上選手のスポーツ合宿のように、明確な目的を持つ対象者の受け入れを中心に今後も実施する。

(4) 沖永良部島における外国人観光客の受け入れ方針

・ 外国人観光客の来訪実績は、東アジア各国からは来訪が皆無に近い反面、欧米人のヨットマンの寄港という特徴がある。欧米諸国から寄港するヨットマンが多い島という特徴を活かし、国内外のヨットマンによるネットワークづくりや受け入れ体制の組織化、情報発信の強化を行う。

(5) 与論島における外国人観光客の受け入れ方針

・ 沖縄を経由して来訪する欧米人および、米軍関係者などが少数いるほか、琉球の歴史や文化について研究目的で来る韓国や中国からの大学の教員や学生がいる。他には、故森瑤子さんの別荘を訪ねて来る欧米系の外国人客がいるが、与論島として、特に外国人観光客を積極的に誘致するという計画はない。

(6) 奄美群島の各島における外国人観光客の受け入れ方針

奄美大島では、中国からの修学旅行の受け入れや台湾からの観光客誘致に興味を持っていることが分かる。

一方、奄美大島以外の各島における外国人観光客の受け入れ方針については、各島の明確な方針は特にないが、現状では殆ど来訪がないため、具体的な方針や方策を検討する必要がなかったものと考えられる。

東アジアからの外国人観光客の誘致については、その目的と地域におけるメリット、デメリットを把握すると共に、東アジア圏の各国での奄美群島の知名度や認知度、奄美群島で楽しむことができる観光・交流内容を見据えた誘致を進めることが望ましい。

外国人観光客に対しては、基本的なインフラについて研究して整備することが必要。

5-3 奄美群島における東アジアからの外国人観光客の受け入れについて

① WG会議から

奄美大島以外の各島では、特別な目的をもって来訪する外国人客以外の観光客は皆無という状況である。

奄美大島・加計呂麻については、海外からの大型クルーズ船や修学旅行の受け入れに対する期待や希望があることが分かる。また、誘致したい国と旅行の種類では、台湾、上海（中国）、ソウル（韓国）からの一般観光、中国からの修学旅行となっている。

② ヒアリング結果から

奄美群島に関する東アジア圏からの外国人観光客の受け入れの可能性は認知度とともに非常に低いことがわかる。

今後も東アジアからの外国人観光客受け入れを進めるのであれば、地元側（各島側）としての受け入れ体制整備とあわせた対象地域への熱心な誘客活動が必要となる。

現状を俯瞰する限り、少数ではあるが明確な目的（徳之島：陸上競技のスポーツ合宿、喜界島：学術調査など）を持って来訪する東アジア圏の外国人客の満足度を高めるなど、地道な努力と受け入れの継続、受け入れ体制整備が必要である。

東アジアの観光客の傾向には、大陸的な文化背景が根強く、ビーチリゾートや海洋レジャーなど、海を観光、娯楽の対象として楽しむ習慣がないことが特徴とされている。

海外からの修学旅行は、一般の観光旅行よりも低価格で販売され収益性が低い。サマースクールなど奄美群島の小中学校との交流事業として、海外からの児童・生徒を呼び込むことが、修学旅行に比べ収益性が高い。その際でも、奄美群島へ行く目的や理由付けが必要になる。

現状の受け入れキャパシティから推測すると、団体旅行ではなく経済的に余裕のある個人客の受け入れを検討することが望まれるが、施設や設備への投資が必要になってくる。田舎としての良さをセールスポイントにするのであっても、飲食、宿泊、入浴といった基本的な施設整備は、都市の宿泊施設と同等のレベルが求められている。

受け入れを行う地域が、自らの観光の目玉や強みを把握したうえで、宿泊施設や航空機など主要な輸送手段のキャパシティを明確化し、どのようなタイプのインバウンドの誘致に適しているのかを見極めることが必要。

③ 沖縄に来訪する東アジア圏の観光客のマーケット動向調査結果より

東アジアの主要5都市（台北、ソウル、北京・大連、上海・杭州、香港）における、旅行、観光関係者へのヒアリング調査結果からは、日本への旅行の目的地が、北海道、東京、大阪、京都などの大都市圏であり、これにTDRが加わる、都市型の観光が好まれていることがわかる。

また、ほとんどの調査対象地の旅行者の目的は、「食・グルメ」と「ショッピング」が含まれており、旅行先の文化的な要素への興味は薄いことがうかがえる。

台北、ソウル、上海・杭州の3都市では、リゾートやクルーズなどを目的とする観光客が見込めるものの、台北では「宿泊先の知名度と食事内容」が重視され、ソウルでは「バリ、プーケット、セブ、グアム、サイパン」などの有名リゾートの人气が高く、上海・杭州では「航空、個人旅行ビザ」の問題がネックになっている。

④ 総括

○徳之島、喜界島、沖永良部島、与論島

徳之島、喜界島、沖永良部島、与論島の各島については、明確な目的を持って来島する外国人観光客に対し、これまでと同様の受け入れを行うことが無理がなく、妥当と考えられる。その最大の理由は、航空機と宿泊施設のキャパシティ、直行便が就航していないことが挙げられる。また船舶での来島については、高速船が就航していないため、旅程に様々な活動を取り入れる傾向のある東アジア圏の外国人客には不向きな旅行スタイルと考えられる。現状、奄美群島の各島へ寄港しながら鹿児島～沖縄を結ぶ定期船においても、欧米系の観光客を少数ではあるが目にするため、今後も一定数の欧米系観光客の利用はあるものと考えられる。

○奄美大島、加計呂麻島への誘致・一般観光客

奄美大島および加計呂麻島への東アジアからの外国人観光客誘致であるが、各関係者へのヒアリングや「平成20年度 国際観光地プロモーションモデル事業」のアンケートおよびモニター調査結果を見ていくと、非常に困難な状況下にあることがわかる。その物理的な要因としては、以下の各項目が挙げられる。

- ・各国からの直行便が就航しておらず、航空運賃が高い
- ・各国の観光客が好む旅行目的(グルメ、ショッピング、温泉、ゴルフ、イベントやコンサート、知名度の高い宿泊施設 など)の魅力が低い
- ・島全体の宿泊キャパシティが団体客には不向き
- ・世界遺産のようなブランディングされている自然資源、文化資源に乏しい
- ・奄美群島自体の知名度が低く奄美の観光の魅力が顕在化されていない

○奄美大島、加計呂麻島への誘致・教育旅行

また、誘致を目指し、活動している修学旅行については、一般の観光旅行に比べ収益性が低く、国内の修学旅行のような民泊は好まれないという指摘がされている。このような要素を踏まえながら、修学旅行の受け入れを行うのであれば、受け入れ地域としての収益性以外の目的を明確にし、その目的に沿った受け入れを行うことが必要になる。

さらに、修学旅行よりも収益性の面で良好とされているサマースクールなど、地域の小中学校の児童・生徒との交流を目的とする教育旅行については、学校同士の関係づくりから交流事業の実施まである程度の時間が必要であることに留意するとともに、奄美大島および加計呂麻島に誘致する明確かつ独自の目的を設けることが必要になる。

教育旅行の受け入れについての留意点を次頁に示す。

・誘致する学校への熱心なアプローチと中長期的な交流活動の実施

・奄美大島、加計呂麻島へ誘致するための旅行目的と受け入れ目的の明確化

○奄美大島、加計呂麻島への誘致・クルーズ船

大型のクルーズ船受け入れについては、既に国内旅行での経験があるため、可能性は高い。その一方で、寄港した観光客に対し、どのようなものを提供するのかが、という問題点が想定される。

停泊時間にもよるが、屋久島のトレッキングの人気の高いということを考慮すると、金作原や住用のマングローブ、滝や川などへの自然ガイドツアーなどのプログラムを試行的に実施することも考えられる。ショッピングやグルメといった要素については、国内の観光客への対応と同様、商品自体のレベルアップとあわせたマップ類の整備なども求められる。

奄美群島全体WG会議の委員発言にもあるように、「**マスで観光客を呼ぶのではなく、パーソナルに対応する個別の観光客づくりが奄美の観光の王道**」、「**デジタル化した沖縄の観光に対し、奄美はアナログ。奄美も沖縄を知らなければいけない**」など、課題は多岐にわたっている。

国内向けの観光・交流推進と同様の課題となるが、「**自らの観光の魅力や強みを把握し、奄美群島の状況に適した観光・交流方策と国内を含む受け入れるマーケット選定を慎重に行う**」ことが、今後も求められる。

6. 各島・奄美群島全体での観光・交流推進の今後の進め方

6-1 各島の今後の観光・交流推進方策と受け入れ体制整備について

(1) 各島の観光・交流推進方策

奄美群島各島の観光・交流推進方策は、それぞれの島において設定した観光・交流推進の核となるものを主軸として、地域資源の整備や地域人材の活用による観光・交流プログラムや体験メニューづくり、特産品による商品開発や販売強化を行うものとする。また、各島の魅力を伝えるにあたり、各島WG会議で検討した紹介文（メッセージ）なども有効活用することが望まれる。

各島の観光・交流推進の核と島の魅力を伝える紹介文（メッセージ）は以下のとおりである。

各島	観光・交流推進の核と紹介文（メッセージ）
奄美大島・ 加計呂麻島・ 請島・与路島	<p>【観光・交流推進の核】</p> <p>海と山の自然資源、生活文化の体験、特産品と食、その他の地域資源</p> <p>【島の魅力を伝える紹介文（メッセージ）】</p> <p>笠利：南の島らしい白い砂浜、青い海と空、白い雲、サトウキビ畑の広がる見晴らしの場所</p> <p>龍郷：西郷南洲謫居の地。亀甲みだれ積の琉球石垣が残り、ソテツ、バショウが群生する歴史ある場所</p> <p>名瀬：美しい大浜海岸や亜熱帯植物の原生林が生い茂る金作原の自然と繁華街が隣り合う場所</p> <p>大和：西側に沈む夕陽がネリヤカナヤの信仰を思い起こさせる、奄美大島のサトウキビ栽培発祥の地。</p> <p>宇検：アマミノクロウサギやオオトラツグミなど、奄美の固有種が集まる森と山のある場所。</p> <p>住用：自動車から降りてゆっくり歩けば、川や滝、マングローブなどが楽しめる場所。</p> <p>瀬戸内：海上タクシーとフェリーが行き交う大島海峡や古い集落の昔ながらの風景を見られる場所。</p>
喜界島	<p>【観光・交流推進の核】</p> <p>歴史的な集落景観、黒糖焼酎の酒蔵見学と体験、スキューバ・ダイビング、その他の地域資源</p> <p>【島の魅力を伝える紹介文（メッセージ）】</p> <p>歴史的な5つの集落（琉球国との激戦地・海軍戦跡、高倉、下り井戸など昔の風景・古（いにしえ）からの喜界島の表玄関・珊瑚の石垣とガジュマル防風林の家並み）とそこで暮らす人ありきの島</p>
徳之島	<p>【観光・交流推進の核】</p> <p>スポーツ合宿、闘牛、追い込み漁や海での体験観光、特産品開発、その他の地域資源</p> <p>【島の魅力を伝える紹介文（メッセージ）】</p> <p>日本一迫力のある闘牛、世界で一番大きく強い牛のいる島</p>
沖永良部島	<p>【観光・交流推進の核】</p> <p>農業（花、ため池 を含む）、ウミガメ、洞窟と湧水・鍾乳洞、ヨットの受け入れ、その他の地域資源（タラソセラピー、ダイビング を含む）</p> <p>【島の魅力を伝える紹介文（メッセージ）】</p> <p>赤土と暖かい太陽の恵みを受けた元気なお野菜がとれる島</p>
与論島	<p>【観光・交流推進の核】</p> <p>きれいな海（環境保全、魅力を伝える人的資源、魅力を楽しむための工夫）、人情にあつい人的な魅力（おもてなし、人的交流の促進）</p> <p>【島の魅力を伝える紹介文（メッセージ）】</p> <p>名前のある60の砂浜・リーフに囲まれた内海と外海・エメラルドグリーングラデーシヨンの海に囲まれた島。</p>

(2) 各島の観光・交流の受け入れ組織

奄美群島各島において、観光・交流推進を行う主体として、考えられる組織と機能は以下のとおりである。

各島	観光・交流推進の主体と機能
奄美大島・ 加計呂麻島・ 請島・与路島	瀬戸内町観光協会：瀬戸内町を訪れる観光客のための窓口業務全般。
	奄美大島体験交流受入協議会：奄美大島の観光・交流推進につながる人材育成。
	奄美大島観光物産協会：島外での物産展などを中心とした観光交流の推進活動。
	奄美大島観光協会：会員のみに対する活動。
	奄美大島エコツアーガイド連絡協議会：ガイドの自主ルールの設定と意識向上の推進。
	上記の組織の他に、奄美大島全体の観光・交流推進や情報発信の窓口組織が必要
喜界島	喜界島観光協会・よんよ〜り喜界島：これまでと同様、双方が連携しながら観光協会が集落あるきの窓口を担い、情報発信機能を整備していく。
徳之島	徳之島観光連盟：島全体の観光・交流推進を進めるとともに、闘牛関連団体など他の地域資源に関連する組織との連携を進め、観光・交流推進に取り組む。
沖永良部島	知名・和泊の観光協会：統合による観光連盟の結成を目指す。
	おきのえらぶプロシューマーむすび：特産品の開発・販売とともに、観光協会や地域のリーダーとの連携の場づくりや情報発信および組織運営をサポートする。観光・交流受け入れの窓口は、地域のリーダーなどが中心となる組織の検討と設置を目指す。
与論島	ヨロン島観光協会：行政との連携体制を維持し、PR事業やイベント開催とあわせた観光客動向のマーケティングに取り組む。あわせて、沖縄との連携による観光・交流を進める。

6-2 奄美群島全体の今後の観光・交流推進方策と受け入れ態勢整備について

(1) 奄美群島全体の観光・交流推進のための組織体制づくり

各島および奄美群島全体で3回ずつ開催したWG会議では、島ごとに進捗状況の差はあるものの、各島における観光・交流推進団体の整備や窓口機能は、動きが出始めている状況にあることがわかったが、奄美群島全体を包括する観光・交流推進団体や受け入れ窓口については、その必要性が委員発言に多数見られるものの、実施主体となる組織や規模、運営体制など具体的な内容については今後、さらなる検討や関係者間での協議、調整が必要な状況である。

① 奄美群島全体の観光・交流推進組織に対する委員の意見

【組織の必要性】

- ・新しいイベントなどもあり、市町村の観光課での対応は手一杯の状況である。**専属的な受け入れ窓口や組織を早く立ち上げないとこれ以上の観光受け入れが難しい状況になっている。**
- ・受け入れ窓口・組織があると、情報の総合的な管理ができるので便利である。
- ・電話でここに聞けば、奄美のことが分かるというような窓口があればいいと思う。
- ・現場に立ち、かつ事務局でも動く、というようにしていると、何をしているかわからなくなる。**しっかりした窓口組織があった方がよい。**
- ・観光については、奄美の島全体を一つにまとめる組織で取り組まないと受け入れや情報発信が十分に行えない。
- ・責任の所在が明確で、きちんと機能する組織をつくる必要がある。

- ・自分たちがやるべきことと皆で連携してやっていくことの役割分担を行い、しっかりした体制をつくってゆくことが必要。
- ・推進体制について、組織をまとめる範囲を他市町村と連携する必要がある。例えば、修学旅行などは瀬戸内町と連携しないと受け入れられない。

【組織体制のイメージ】

- ・広くやってゆくことをイメージすると、公的なもので財政基盤をつくる必要がある。今ある組織をどう整理して役に立つものにしてゆかが課題である。
- ・個々の取組みでは力が弱いので、奄美群島観光連盟が全体をまとめる組織として活動してゆくべきではないか。群島観光連盟の組織をどう活用してゆかが課題である。
- ・既存の組織でないところから立ち上げた方がうまくいくのではないか。観光協会から新しく始めるといっても、前のイメージがついてまわる。中立の立場の方が動きやすい。
- ・組織は、複雑にしたり沢山つくったりしないようにしないといけない。
- ・群島側が一つにまとまった組織があり、東京にも支局がある、というような構造になるとよい。
- ・集落の人達と業者をつなぐ役割をするコーディネート的な会社をNPOで立ち上げようという話はあったが、設立には至っていない。
- ・組織づくりには、年会費、受益者負担、補助金、それらすべてを入れてやらないとだめだと思う。
- ・後継者や仲間づくりも含め、窓口業務とガイドを持続できるような、手数料等の徴収も含めた体制づくりが必要。

【組織に求める機能】

- ・奄美群島全体としてのPRは群島で行う必要がある。群島の観光客は1島だけの観光客ではない。
- ・ランドオペレーターの機能は大事だがお金にならない。ボランティアに頼ることになってしまう。それでも、情報収集、通信機器の費用など活動経費がかかるので、サポートするシステムが必要。
- ・奄美群島全体の広報担当がいるといい。一企業でも月に10本ぐらいリリースを出すのが、奄美群島全域でも積極的に情報発信を行う必要がある。

【組織の担い手】

- ・成功事例にはキーマンがいるので、人材が大切である。
- ・全島をつなぐ情報を提供できるポイントとなる人を各島で立てて、顔を見て対応できるといい。
- ・奄美群島観光連盟の位置づけとしてはキャンペーンをやっているが、人員的にも予算的にも全体を売り出す力がない状況。人員の確保には、各市町村から人材を出してほしい。

【各島間の連携および情報交換】

- ・観光については1市町村だけで考えていないで他の町村と連携をとるようにしている。
- ・島々が集まる機会が少なく、現場の意見が出てこない。群島の人が集まる機会が続いてゆけばいい。
- ・群島の会合は、徳之島や沖永良部島など各島々で開催することが必要である。そうすれば実態が分かる。群島の観光連盟を通じて横のつながりができ、地域間の交流が出てくればいい。
- ・群島として取り組むには、島による意識のギャップを埋めることも必要である。

奄美群島全体WG会議の委員発言からは、組織設置の必要性を指摘する多数の意見とともに、組織体制のイメージや求める機能、組織の担い手となる人材などに関する意見も多く挙げられている。あわせて、各島の連携強化を目的として、情報交換の機会を定期的に持つことを希望する意見が複数見られた。

② 奄美群島全体の観光・交流推進組織に求められる機能

WG会議の委員発言を踏まえ、奄美群島全体を包括する観光・交流推進組織に求められる機能

を分類すると以下のようになる。

【企画・運営機能】

- **コンセプト企画** ⇒ 奄美群島全体の観光戦略づくり、奄美らしさや奄美の魅力創出を行う。
- **観光コーディネート** ⇒ 奄美群島全体の地域資源の発掘から磨き上げ、商品化へ向けた基盤整備を行う。
- **ブランディング** ⇒ 奄美群島全体の地域資源や観光プログラムの付加価値を高める。

【実務実施機能】

- **広報・プロモーション** ⇒ 群島外への情報発信と群島内の情報集約および、各島への情報提供
- **マーケティング** ⇒ 奄美群島全体の観光動向の把握や物産・特産品開発に対する市場調査を行う。
- **イベント企画** ⇒ インパクトのある規模の大きいイベントの定期的な企画と開催

【観光・交流推進に付随して求められる機能】

- **物産・特産品の開発・窓口** ⇒ 奄美群島全体の物産、特産品の開発支援および流通手配などの窓口業務
- **ランドオペレーティング** ⇒ 宿泊施設、観光地、群島内の交通、ガイドなどの手配業務

求められる機能は、「企画・運営機能」と「実務実施機能」、「付随して求められる機能」の3つに大別でき、「企画・運営」は主として、奄美群島全体の観光行政は観光施策と関連するものであり、今後、奄美群島の観光・交流をどのような方針で進めていくのかを企画するとともに、「奄美らしさ」や「奄美の魅力」がどのようなものであるのかを明確にするなどの取り組みが期待される。あわせて、現状の地域資源や観光・交流方策について、付加価値を高めることで、奄美群島全体の観光イメージの高級化や高品質化を進めることも必要になる。

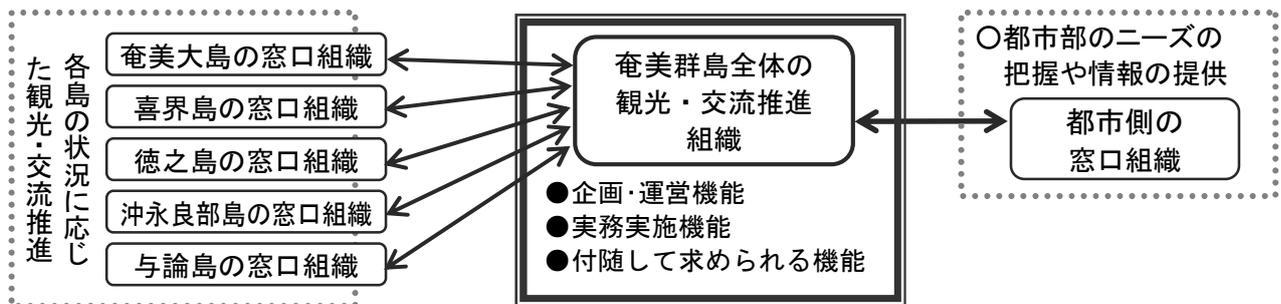
「実務実施」は、WG会議の中でも多数挙げられていた奄美群島全体の観光・交流の情報発信を行う広報やPRイベントの定期的な実施とあわせて、奄美群島や観光、宿泊施設の来訪者数と属性、観光のスタイルや観光目的などの動向を把握するマーケティングの業務が考えられる。加えて、特産品などの商品開発を効果的に行うための市場調査なども必要になってくる。

「付随して求められる機能」は、設置するタイミングを組織設立時と組織運営が安定する数年後にするのかを検討することが望まれる。特に、ランドオペレーティングは、手配業務が中心となるため、民間の旅行代理店との共同実施の可能性なども検討し、実現化することが望ましい。

③ 奄美群島全体の観光・交流推進組織で考えられる組織形態

奄美群島全体を包括する観光・交流推進組織を設置する場合、その組織の位置づけとあわせて、いくつかの組織形態が考えられる。以下に、求められる組織の位置づけと考えられる組織形態を示す。奄美群島の各島には、観光・交流推進団体が設立されているため、奄美群島全体の観光・交流推進で求められる組織の位置づけは、各島と都市部の観光客との仲立ちを担うものといえる。

奄美群島全体の観光・交流推進で求められる組織の位置づけ 概念図



奄美群島全体を包括する観光・交流推進組織の設置で考えられる組織体制について、比較表を次頁に示す。

○奄美群島全体を包括する観光・交流推進組織の設置で考えられる組織体制

考えられる組織体制	利 点	課 題	他地域の事例
①奄美群島観光連盟に部署を設置 (既存の組織に新たな組織機能を追加する場合)	◎既存組織内に新たな部署を設置するため、新組織設立の作業が簡略化でき、早期の組織開設が可能になる。 ◎各島や群島全体の観光・交流推進において、これまで取り組んできた実績や培ってきた人的なネットワークが活用できる。 ◎行政の観光政策を事業に反映させやすい。	▲公的な部分の中に民間企業的な機能を組み込む必要があるが、組織体制作りにおける役割分担を明確化する必要がある。	一般財団法人奈良県ビジターズビューロー、社団法人千歳観光連盟、オホーツク圏観光連盟、社団法人長崎県観光連盟 など 上記の他②、③の事例で示している他地域の組織全般が参考事例。
②公共が実施主体となる第3セクターを設立 (新たな組織を設立する場合)	◎資金的に安定した組織運営が期待できる。 ◎公的団体が運営するため、組織への信頼感が高まる。 ◎行政の観光政策を事業に反映させやすい。	▲組織設立のための出資者が必要。 ▲群島全体の観光・交流推進の窓口として、情報発信能力、コンセプト企画力などの点における機動性や外部関係者とのネットワーク作りに必要な経験豊富な人材の確保が課題。	(財)横浜観光コンベンション・ビューロー、(株)南信州観光公社、(財)会津若松市観光公社、鳴門市観光コンベンション(株) など
③民間が実施主体となるNPOを設立 (新たな組織を設立する場合)	◎民間の組織運営のノウハウが発揮できる。 ◎ガイド団体や観光事業者など民間事業者との連携や共同事業実施が行いやすい。	▲財務的基盤が脆弱である。 ▲NPO設立を行う事業者が見つげにくい。	ゆうばり観光協会、大滝まちづくり観光協会、おちかアイランドツーリズム協会、渡嘉敷村観光協会 など

▼これまでの検討結果より▼

**群島全体の観光・交流推進に特化した組織を設置し、
数年間の試行期間を経て、本格的な組織の立ち上げを行う必要がある。**

④ 奄美群島全体の観光・交流推進組織の設置における留意点

○群島側関係者の意識づくり

観光・交流推進および地域振興においては、第一に観光客の立場に立って、事業を推進することが最も重要である。地域の意識を変えるためには、長い時間を要するものと思われるが、奄美群島の関係者が目指す方向や気持ちを一つにして、早急に意識づくりや意識共有を進めていく必要がある。

今回の調査を進めていく過程で感じたこととして、奄美群島内に暮らす人の中には、時として島を出た人に対する一種独特な考えを垣間見ることがある。例えるなら、島外に暮らす群島出身者が奄美群島および各島に対し、観光・交流推進、地域振興、ビジネスチャンスなどにおいて有益な指摘を行うことに対し、反発や批判的な姿勢となり、双方とも利益を得る機会を逃してしまうようなことが見受けられた。

これは、今後の奄美群島における観光・交流推進や特産品販売などの地域振興のためには、気持ちを切り換えるべきであろう。

○各分野の専門家など島外の人材の積極的な導入

観光・交流推進にも大きく影響する特産品の開発、製造、販売において、離島の最大の弱点が加工技術や品質表示、梱包やデザインなどの各分野の専門家不足と情報不足である。また、加工施設や設備が島内では対応できないという物理的な弱点もあわせて考えると、島外からの専門家の招へいや島外企業をビジネスパートナーとして信頼関係を構築しながら事業を進めることが要点となる。そのためには、定期的かつ状況に応じて素早く島外の関係者との連絡調整が行える人材の確保や育成が必要であり、今後の観光・交流推進と特産品の開発、製造、販売による地域振興を考える上でも、島外からの専門家や担当する人材を導入し、島外および都市部側からの視点に立った特産品の開発、製造、販売を進める体制づくりが望まれる。

○より広範な主体からの事業費用及び人材の確保

奄美群島内の市町村において観光・交流推進や地域振興関連の取組みが行われている現状ではあるが、群島全体を包括する観光・交流推進組織の設置においては、国の各省庁や鹿児島県などのより広範な主体から事業費用の導入を検討、実施する必要がある。

本調査で検討した組織では、求められる機能を満たすための人材とその人件費の確保が必須となるため、「奄美群島全体の観光・交流推進」に特化した事業費用と人材の確保を早急に検討、実施することで、求められる組織体制整備が実現できる。

また、組織整備や専門家の招へい、新商品の開発などは、観光・交流関連以外の分野においても利活用できる補助事業や助成制度などを積極的に活用する必要がある。

**奄美群島における近隣地域等からの
観光・交流推進方策に関する調査報告書**

概要版

平成 22 年 3 月

委託者：国土交通省都市・地域整備局

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3

TEL 03-5253-8111(代)

受託者：財団法人日本交通公社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-2

第一鉄鋼ビル 9F

TEL 03-5208-4701(代)